

苫小牧国際リゾート構想

～イノベーションリゾートの実現に向けて～

2018年6月

目次



苫小牧国際リゾート構想 背景

日本・北海道・苫小牧が抱える社会的課題の認識



民間活力による新たな取組みの必要性

IRの効果を活用した社会的課題の克服



北海道ゲートウェイ機能強化による観光振興への貢献



国際リゾート構想に沿ったまちづくり

イノベーションリゾートの実現



国際リゾート構想の中核 WHITE IR



IRがもたらす経済効果、インフラ、雇用面の検討



ギャンブル依存症等の負の影響対策



国際リゾート構想の実現に向けて

苫小牧国際リゾート構想 背景

日本・北海道・苫小牧が抱える課題の認識



国際リゾート構想を考える上での時代認識

「国際リゾート構想」
を考える上では、正確
な時代の認識が必要

➤ 社会課題の変化

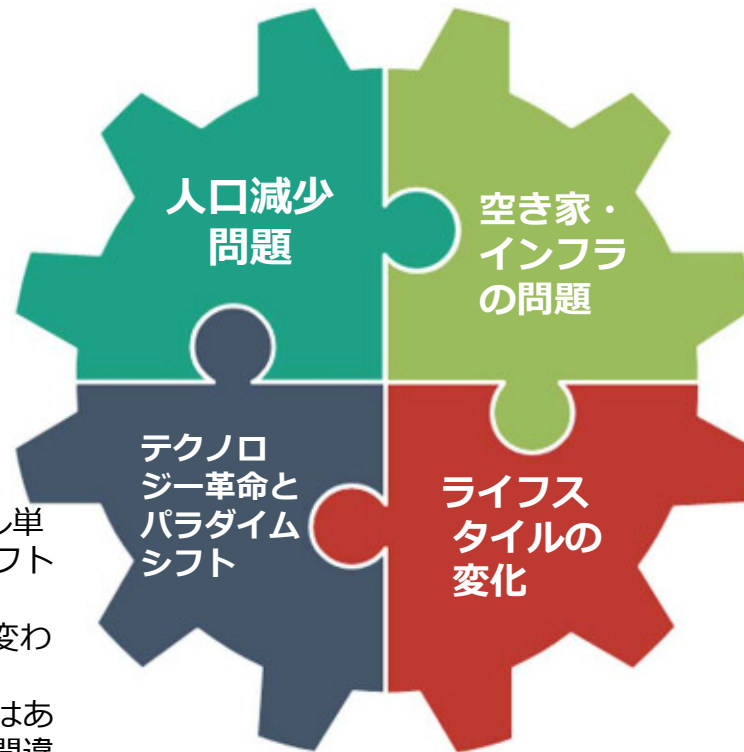
20世紀と21世紀では、日本の抱える課題は正反対になっている。



最も深刻な問題が、雇用と経済に及ぼす 「人口の減少」と「少子高齢化」

日本が抱える4つの社会的課題

人口減少・少子高齢化
▶ 労働生産者、需要、税収の減少



- 空き家増加、市街地空洞化
- インフラの老朽化による維持困難（財源不足）
- 限界集落（公共インフラ・交通機関の維持困難）

- テクノロジー革命^{※1}とグローバル単位での産業・社会のパラダイムシフトの潮流^{※2}
（ITのみではなく、リアルな世界が変わる）
- 各課題を根本的に解決する可能性はあるが、導入に伴う負の影響対応を間違えると貧富の差や社会的分断リスクが生じることもある

※1 AI、IOT、ロボティクス、自動運転、VR・AR、キャッシュレス、仮想通貨、再生エネシェアエコノミー等

※2 思想や概念、規範や価値観が枠組みごとに移り変わる

- 以下の階級・世代がカギとなる。
- クリエイティブクラス^{※3}
イノベーションの担い手、仕事と遊びの境目無し、魅力的なまちを選ぶ（郊外から都心回帰）
 - ミレニアル世代^{※4}
デジタルネイティブ、モノより体験重視、
他人の共感・評価重視

※3 リチャード・フロリダ（北米経済学者）により提唱された、脱工業化した都市における経済成長の推進力となる科学・工業・コンピュータ・デザイン・メディア等で創造性が求められる業務を行っている者たちを指す

※4 2000年代に成人になった世代



4つの社会課題は人口問題を起点に相関関係があり、負のサイクルに陥る懸念や、子供たちに暗い未来が待っている可能性がある



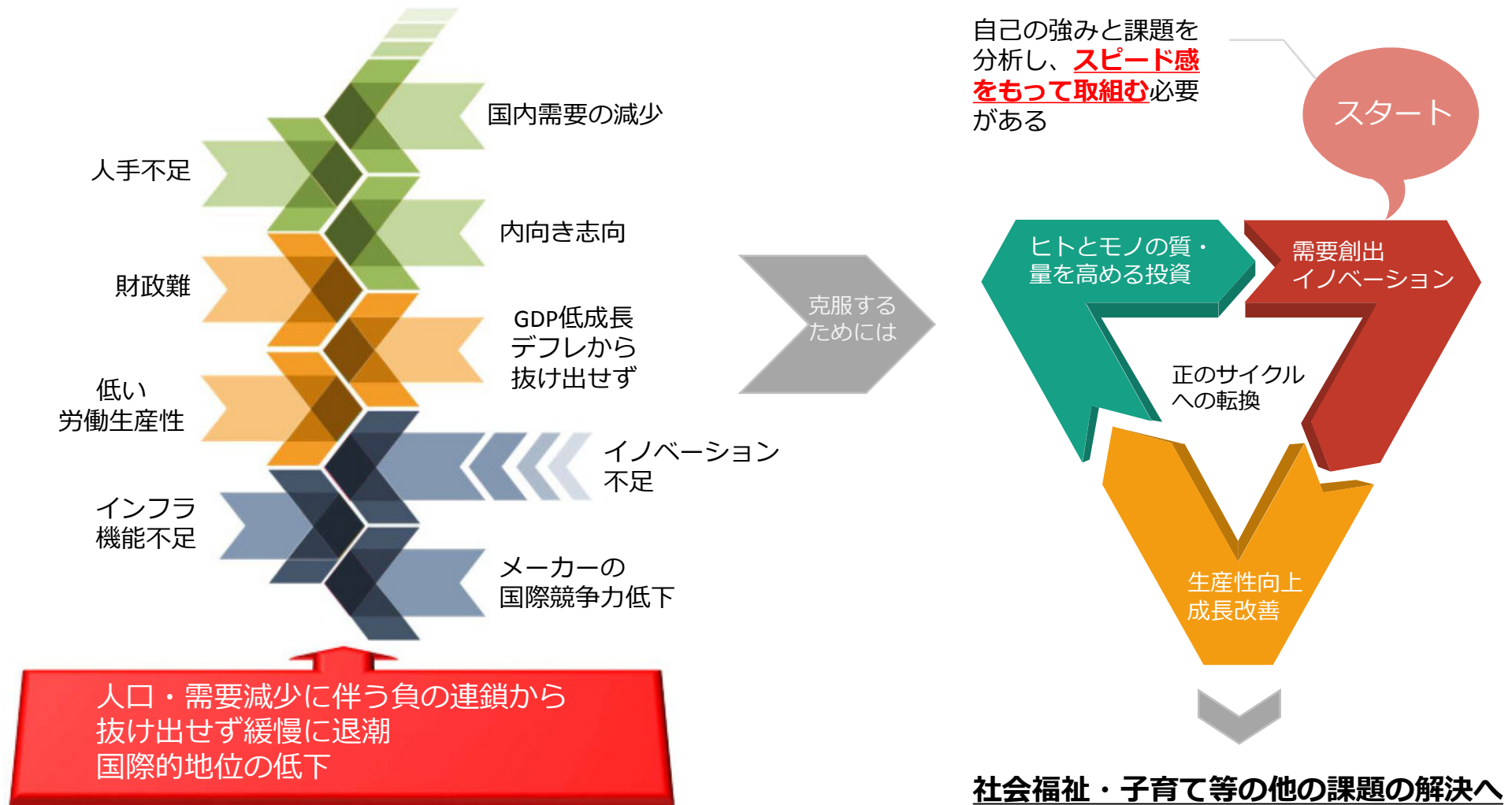
正のサイクルに向け、
**国民・企業・行政等が
知恵を絞る必要がある**

社会課題をどのように克服するか？



- 4つの社会課題に対し日本は先行しているが、やがては世界共通の課題になる
- 日本は課題先進国として、世界に先駆けて克服できれば、アジア等にそのノウハウを売ることが可能

しかし、現実はいくつか？



北海道・苫小牧の強みと課題の分析

-  北海道と苫小牧の強みを活かし、課題を克服するためには何に取り組むべきか？
-  人口減少社会に負けない活力ある産業は何か？

北海道

強み

豊かな自然資源をベースにした産業・生活

人口537万人(全国で8位)
自然豊かなライフスタイル

貴重な自然・観光資源
日本の食糧庫

広大な土地を有している
(日本の国土の22%)

課題

地方として各社会的課題がより深刻に進行

首都圏等への流出が続く
(2040年の人口推計値 420万人)
札幌集中・他地区過疎化

公共投資依存が高い
(全国平均43%に対して60%)
民間活力・新産業乏しい

交通ネットワーク
維持コスト
JR北海道問題

人材



産業



インフラ



苫小牧市

強み

ものづくりの街、
新千歳空港、札幌に隣接

人口17万人(全道で4位)
ものづくりの人材

ものづくりの街
豊富な自然と景観資源

新千歳空港・札幌に隣接
北海道の空・海・陸の
交通網の要衝に位置

課題

人口減少、新産業必要性
インフラ老朽化、空洞化

若年層の市外への流出続く
(2040年の人口推計値 14万人)

国内市場縮小、輸出減少
ものづくりに加えて
新たな新産業が必要

市街地の空洞化
公共インフラ老朽化

地方創生の切り札 観光業の可能性

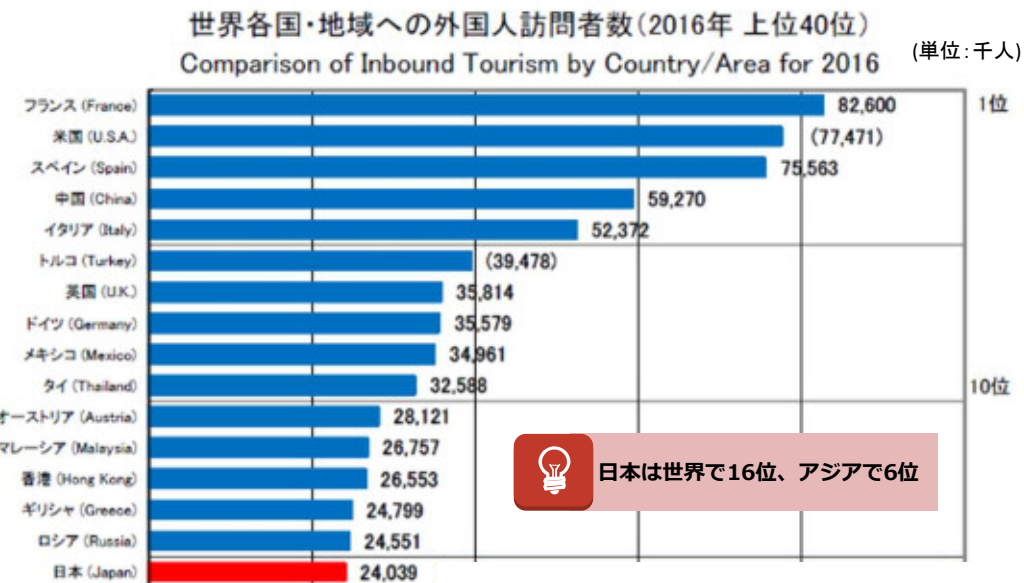
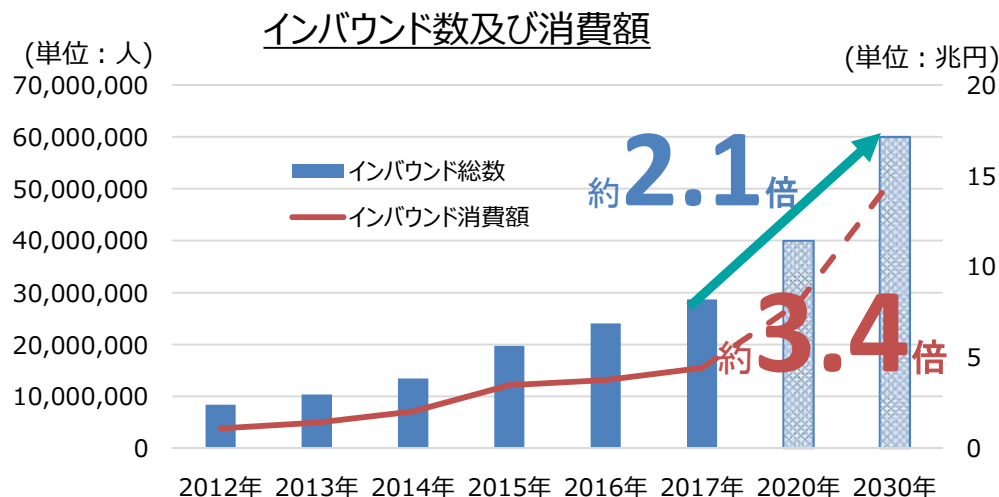


- 人口減少社会に負けない産業の候補として、観光業の可能性を検討する。
- 日本政府は、観光業を成長戦略の柱、地方創生の切り札として位置付けている。

ポイント：インバウンド需要をどのように取り込むか？



- ・人口減少・輸出減少の下で、インバウンド(訪日外国人)取込みは需要を増やす最大のターゲット
- ・インバウンド総数は近年著しく増加、国は観光消費額も含め高い目標設定(2030年に自動車輸出額超える)
- ・成長するアジア需要、豊富な観光資源を考慮すると、今後も十分な潜在成長力あり

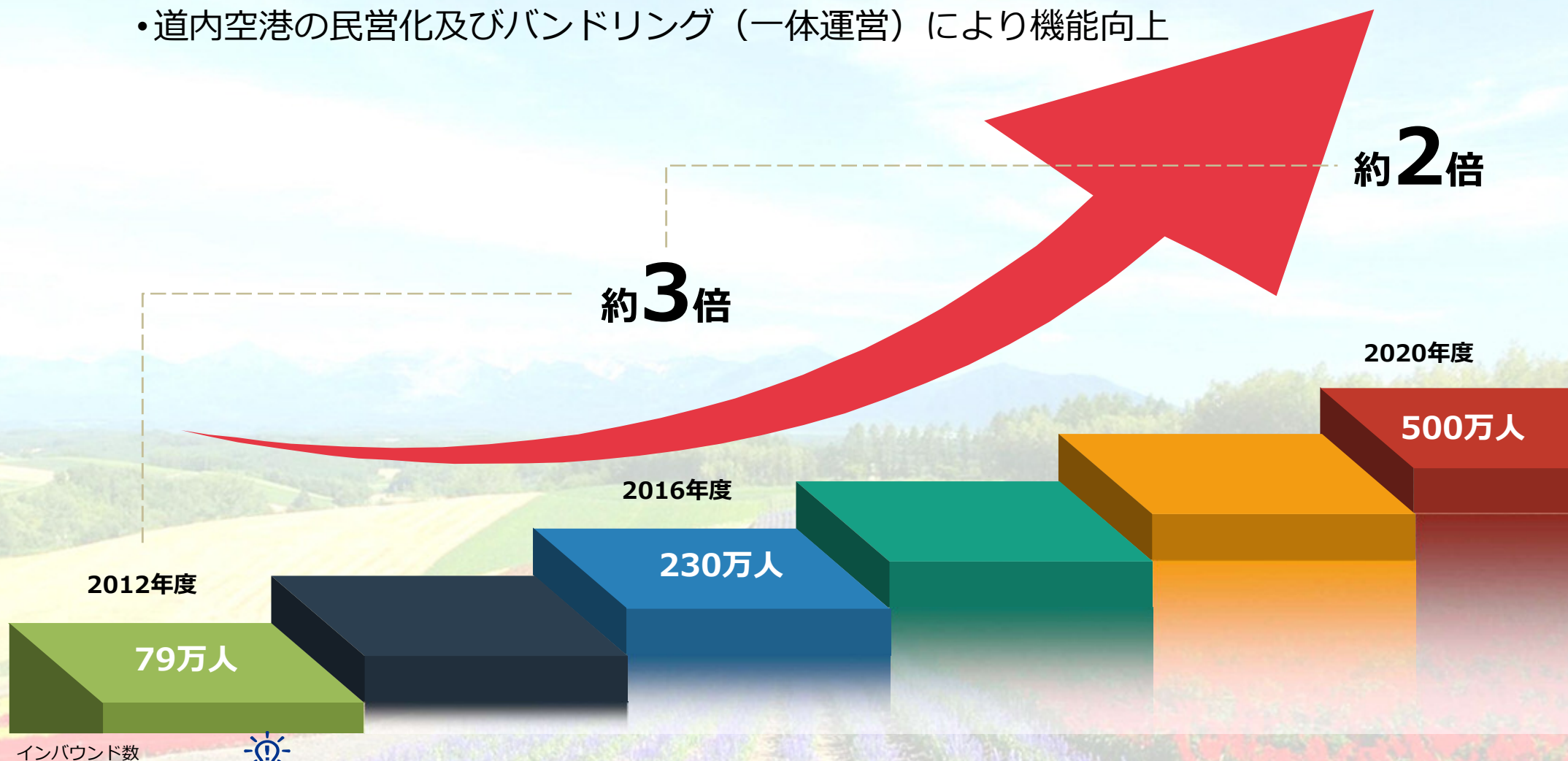


(出典)JNTO統計より

北海道観光に係る外部機会の分析

【外部機会】

- 国による観光立国の取組み
- インバウンドの成長
- 道内空港の民営化及びバンドリング（一体運営）により機能向上



北海道は2020年度のインバウンド客数の目標値として、500万人を掲げている

北海道観光に係る優位性の分析

【優位性】 北海道は世界に冠たる自然・食・独自文化と体験型観光の宝庫であり、アジア・オセアニアからも人気の高い北海道ブランドを有している。



池田町、ワイン祭り

自然

雄大さ、山岳・海岸・森・湖、多彩な花々と紅葉、雪・流水・氷結、希少な動植物、豊富な温泉など



大雪山国立公園

食

安全・安心な食材（農畜産物・海産物）、高付加価値の加工食品、北海道の郷土料理など



弟子屈町、池の湯温泉

観光コンテンツ

スキー、登山、トレッキング、カヌー、ラフティング、サイクリング、ホーストレッキング、バードウォッチングなど



共和町、高層湿原

歴史・文化

アイヌ文化、歴史的街並み、開拓の歴史、伝統芸能、馬文化（ばんば、競走馬など）、雪に親しむ風土など



ニセコのスキー場は世界的にも有名

都道府県別延べ宿泊者数で第2位/第3位

順位	都道府県	延べ宿泊者数 (総計)
1	東京都	5,720万人泊
2	北海道	3,448万人泊
3	大阪府	3,142万人泊
合計	-	4億9,418万人泊

順位	都道府県	延べ宿泊者数 (外国人)
1	東京都	1,806万人泊
2	大阪府	1,026万人泊
3	北海道	692万人泊
合計	-	7,088万人泊

訪日外国人の都道府県別消費単価で第1位

順位	都道府県	1人1回当たり 旅行消費単価
1	北海道	65,973円
2	東京都	64,952円
3	埼玉県	51,030円
4	沖縄県	47,163円
5	高知県	47,089円

出典）観光庁 宿泊旅行統計調査（FY2016）、訪日外国人消費動向調査（FY2016）

（出典）公益社団法人 北海道観光振興機構

北海道観光の課題と解決の方向性

一方、北海道観光は以下のような課題を抱えており、十分にその優位性を活かしてきていない。

■北海道観光の課題

① 観光需要の地域的・季節的偏在

- 札幌等の道央圏にインバウンド需要が集中。道東等は伸びが鈍い。
- 夏季と冬季に需要が集中、事業者の経営安定上の障害に。

② 多様なインバウンドニーズへの対応

- 富裕層向け(5つ星ホテル等)、長期滞在型の宿泊施設不足
- 個人旅行者・リピーター増加、新たなニーズに応える魅力的な体験型観光コンテンツの開発が必要。
- ナイトエンタメ(ショービジネス等)、若者・家族向けコンテンツ不足

③ 全体的な人材不足、インバウンドの対応

- 少子化や若年層流出により、北海道内の労働力不足
- 観光・宿泊業は相対的に待遇が低い
- 多言語等、インバウンド対応人材不足

④ 交通インフラの整備・維持

- 道内・道外航空ネットワークの強化、LCC誘致
- 広大な北海道では観光地への2次交通(鉄道、バス等)の整備が必要だが、公共交通維持のコストが大きい(JR北海道問題)
- 特に道東・道北のアクセスが弱い

■解決の方向性

- 北海道内各地の魅力を発信、北海道全体で需要を享受
- 季節的変動を受けにくいビジネス向け施設(MICE)やエンタメ施設の整備

- インバウンドを惹きつける魅力ある観光コンテンツ(ワールドクラスの魅力)の開発
- 質の高い観光サービス提供、客数・観光収入単価向上
- 富裕層向け・長期滞在型宿泊施設の整備

- 国内外からのグローバル人材移住の促進
- 従業員待遇向上による人材確保

- 観光需要による利用者増加によって、交通インフラの充実・維持を促進

 上記課題を解決するためには、高いインバウンドへ集客力を有する「**キラコンテンツ**」が必要
⇒ 観光振興を目的とした**統合型リゾート(IR)**の可能性が浮上する

A scenic view of a resort pool area. In the foreground, there are vibrant red and pink flowers in a planter box. Behind them, a well-manicured green hedge runs across the middle ground. In the background, a large swimming pool is visible with several lounge chairs and orange umbrellas. To the left, a multi-story building with a brown and white facade is partially visible. The sky is blue with some light clouds.

民間活力による新たな取組みの必要性

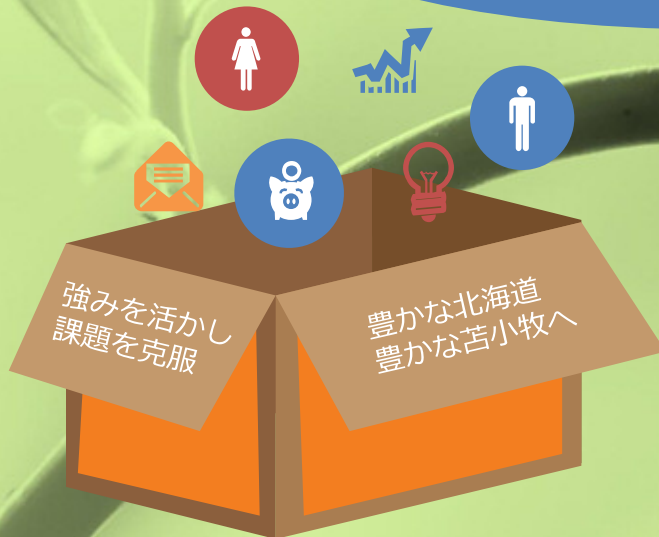
IRの効果を活用した社会的課題の克服

民間活力による新たな取組みの必要性



ポイント

- ・残された時間は少ない（人口減少は待ったなし！）
- ・国の財政は厳しく、公共投資には期待できない
- ・単発の取組みではなく、様々な課題を解決する必要

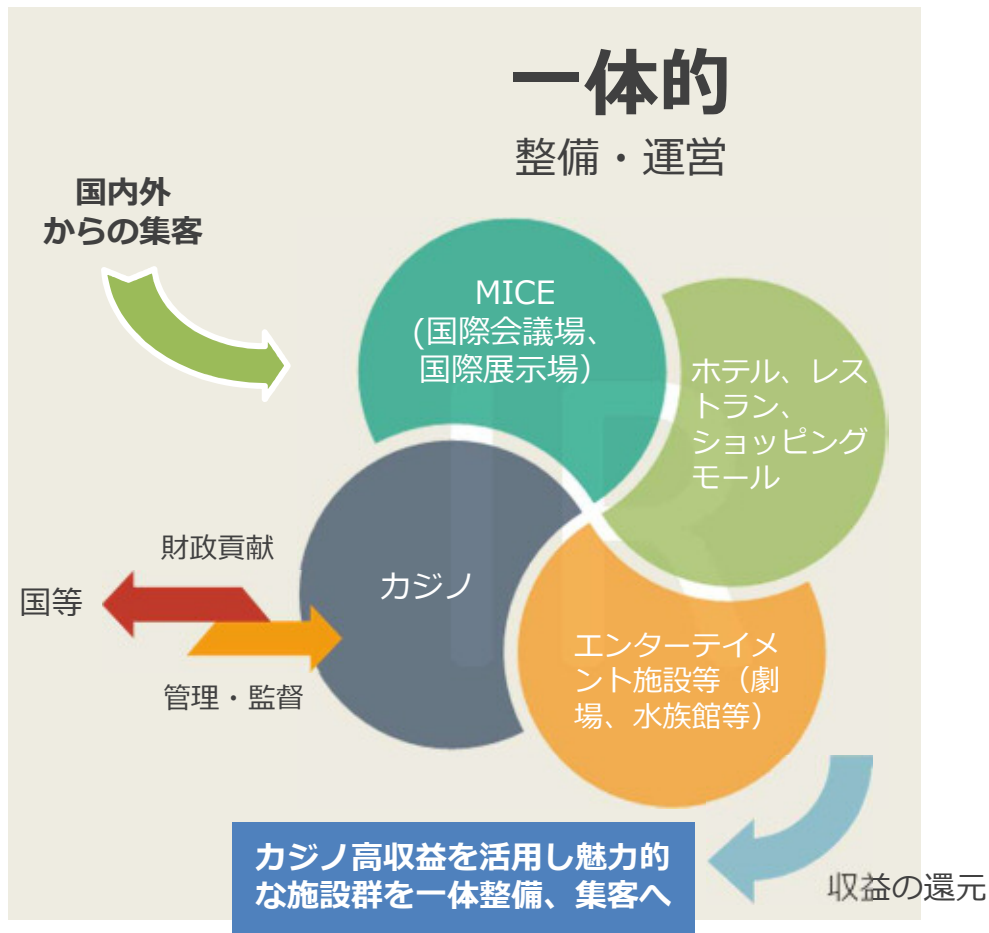


以下の条件を満たす新たな取組みを考えなければいけない。それは何か？

- ・各課題にスピード感をもって克服し、効果を高めること
- ・公共投資依存から脱却、民間活力（民間ノウハウ・資金の活用）による自立を目指すこと
- ・複数の活性化施策（インバウンド需要取込み、道食農ブランド化、空港民営化、2次交通強化等）とのシナジー効果があること

観光の課題解決に対するIRの可能性 日本型IRの概要

前頁の課題解決に対して、IRの可能性を検討する。



IRとは

- IR (Integrated Resort) は、「統合型リゾート」と訳される
- カジノ施設とその他の施設が一体となっている施設+民間事業者が設置及び運営(IR推進法第2条)

日本型IRの目標

民間ならではの創意工夫を活かし、「観光先進国」としての日本を実現する

世界で勝ち抜くMICE



ビジネスモデルの確立

- 多様な魅力を有するMICEの一大拠点として、日本型IR全体がMICE施設整備や誘致・開催の経済エンジンとなりうる
- 新たなビジネス・イノベーションの機会の創造等、観光振興に加え、幅広い「変革」がもたらされ、我が国の国際会議開催のシェアを大きく回復させる

滞在型観光



モデルの確立

- 我が国のショービジネスの市場規模がさらに飛躍的に増大することで、日本の新たな魅力を創り上げ、観光客を呼び込むという好循環を生み出す
- 日本型IRを通じて、文化芸術・観光・産業が一体となった好循環という「変革」がもたらされる

世界に向けた



日本の魅力発信

- 日本ならではの様々な魅力を紹介することで、外国人旅行客が日本のファン・リピーターとなることが期待される
- 日本型IRを拠点にして、旅行者が全国に旅立つことで、インバウンドの消費効果が波及することが期待される
- 日本型IRにとって日本の魅力のショーケース及びゲートウェイとしての機能を発揮し、我が国に対する国際的な認知の有様を変えるという「変革」がもたらされる

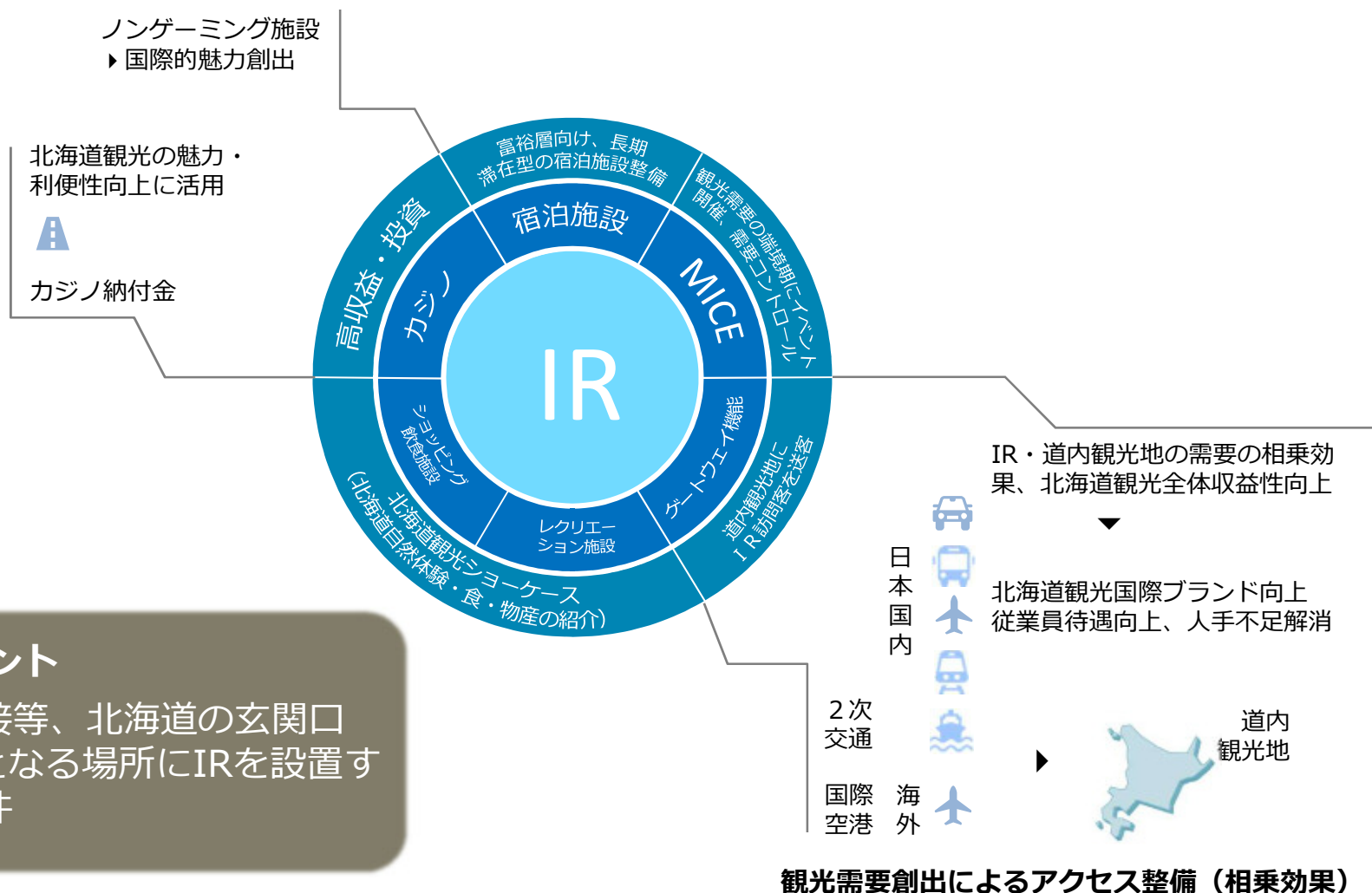
IRをエンジンとした北海道観光の課題克服



- 民間投資・経営ノウハウの活用
- カジノ収益により魅力あるノンゲーミング施設を整備し、集客を図る⇒道内周遊観光・交通アクセスの相乗効果



北海道観光シンボルとしてブランド向上
北海道観光の収益性・労働生産性向上



北海道IR立地要件に対する苫小牧の強み

新千歳空港に隣接 (アクセス面)

北海道観光のゲートウェイ機能を果たすことから、玄関口である新千歳空港に近接していること

⇒ 苫小牧は国際空港である新千歳空港に隣接。また、苫小牧港はフェリーやクルーズ船の寄港地でもある

札幌都市圏との良好なアクセス (アクセス面)

北海道の一大需要地である札幌都市圏 (約300万人) と良好な交通アクセスで結ばれていること

⇒ JR千歳線、道央道により1時間以内でアクセス可能

連携可能な近隣観光地

近隣に観光連携可能な観光地存在

⇒支笏湖・洞爺湖・登別温泉・ルスツリゾート・白老アイヌ・ゴルフ場・馬文化・競走馬育成施設有



サプライヤーとなる企業が集積

近隣にIRへのサプライヤーとなる企業群、従業員居住地域が確保可能であること

⇒市周辺の企業集積、市街地有

自然豊かで広大な敷地の確保

北海道観光 (自然観光メイン) のショーケースになるため、自然豊かで広大な敷地確保が可能であること

⇒空港隣接地に確保可能

- 苫小牧の空港隣接地域は北海道IRの立地として最適
- 苫小牧は、北海道観光振興・課題克服のために貢献できる強みを多数持っている



IRをエンジンとした
苫小牧国際リゾート構想へのチャレンジ

国際リゾート構想の策定にあたってのRFI実施

01

説明会参加事業者数

▶ 30社
(海外事業者15社、国内事業者15社)

02

提案書提出事業者数

15社
(海外事業者8社、国内事業者7社)

スケジュール	実施手続き
平成29年7月21日（金）	参加者向け説明会
平成29年9月22日（金）	提案書の提出期限
～平成29年11月上旬	提案書に関する対話

提案依頼項目

No.	項目
1	全体コンセプト
2	需要予測・顧客構成
3	施設構成等
4	イメージパース図等
5	事業計画等
6	観光資源との連携等
7	インフラに係る要望等
8	地元の貢献等に関する事項
9	カジノ納付金等のまちづくりへの活用
10	責任あるゲーミング対策
11	その他の提案・要望

RFI（投資意向調査）実施の目的

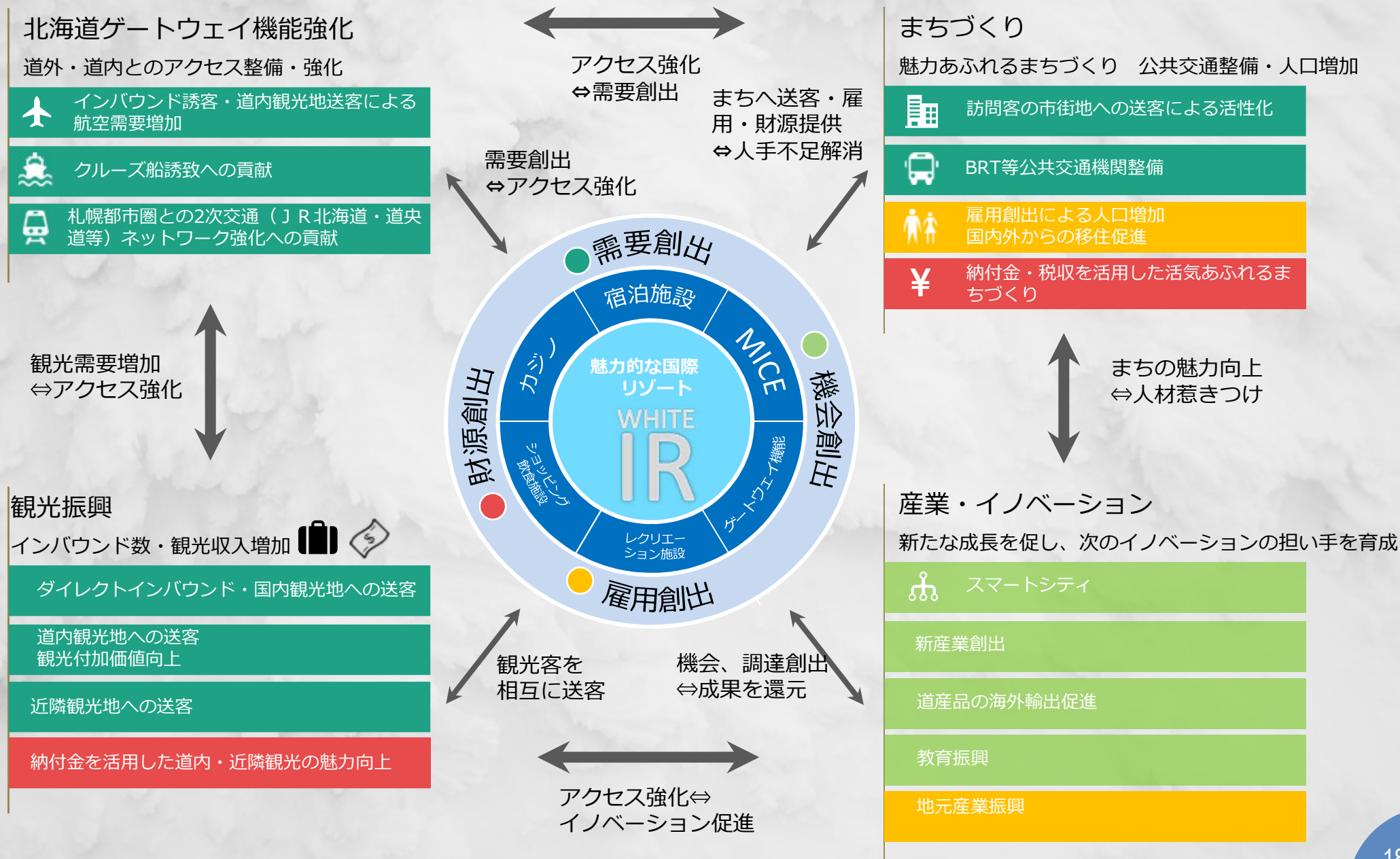
苫小牧市のIR開発に参画を検討している民間事業者から、IRコンセプトや施設構成、事業計画、インフラ整備等に係る提案・要望等を収集し、事業者目線からも実現可能性の高い国際リゾート構想の策定に反映させることを目的として実施

苫小牧国際リゾート構想の7か条

- 1 北海道と苫小牧の、地域再生の構想です。
- 2 世界に発信できるリゾート施設を創設します。
- 3 公共投資に頼らず、民間の投資と活力を活かします。
- 4 環境と共生した、21世紀型のリゾートにします。
- 5 食、美術、音楽、スポーツなど、文化を大切にします。
- 6 リゾート以上に、「イノベーション」の場を目指します。
- 7 依存症など社会的損失の最小化を目指します。

国際リゾート構想 I R による効果が生み出す相乗効果

IRの直接効果を起爆剤として、各施策との相乗効果を生み出し、
好循環のサイクルを実現、国・北海道・苫小牧市の課題克服へ



国際リゾート構想に係る目標設定とPDCA管理

【想定される目標設定項目の例示】



【IRによる直接効果】

- IR 雇用者数・1人当たり給与額
- IRからの地元企業への発注額
- IR訪問客による近隣観光・市街地観光収入高
- IRからの納付金・税収額

【北海道観光・2次交通関連】

- 道インバウンド観光収入高
- 道インバウンド1人当たり観光収入単価
- JR北海道 旅行客増収高
- 路線バス 旅行客増収高

【インバウンド・国内観光振興】

- ダイレクトインバウンド数
- 新千歳空港から国内観光地へのインバウンド訪問者数

【苫小牧市の活性化・新産業】

- 苫小牧市人口・生産労働人口
- IR以外の市産業売上高増加高
- 新産業による売上高・雇用者数
- IR以外の税収増加額
- 市民満足度他政策目標達成度
- クルーズ船年間寄港数

【道食農ブランド向上】

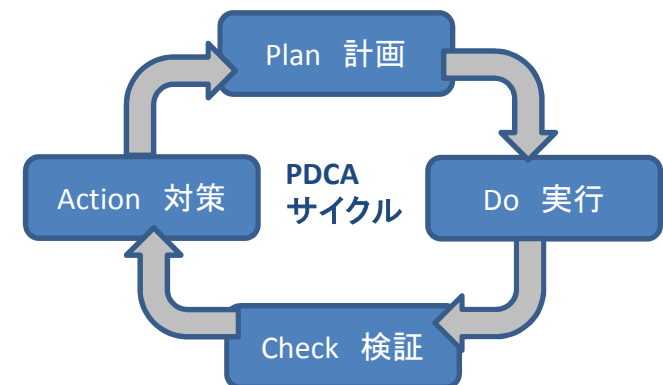
北海道食品・農産品輸出額

国際リゾート構想
IRがもたらす効果について
各々、目標値を設定し
PDCAサイクルにより
達成を目指す

負の影響対策

【負の影響】

道ギャンブル依存症率
市ギャンブル依存症率
市犯罪率



北海道ゲートウェイ機能強化による観光振興への貢献



北海道ゲートウェイエリア都市圏の形成

札幌都市圏



(2030年度末札幌延伸予定)

北海道新幹線



道南
東北



道内企業



大学・研究機関



文化センター



人口集中

道内の民間企業・学術・文化の中心で300万人都市圏を形成。ゲートウェイエリアのネットワークを活用し、国内外との交流を通して北海道全体の活性化へ



道央道

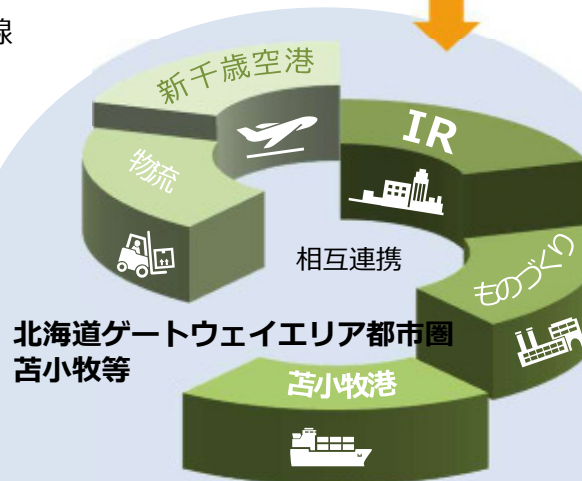
千歳線

札幌⇄北海道ゲートウェイアクセス



日本国内
(道外)

国内観光地への送客



北海道ゲートウェイエリア都市圏
苫小牧等

苫小牧港

北海道のゲートウェイ・ハブ（道外及び道内）として、空陸海のアクセスを活かし、ものづくり・物流に加えて、新たな産業の柱としてIRを機能させることで、北海道全体の交流機能を強化し、国・北海道の観光・産業双方に貢献

道東観光圏



阿寒湖・釧路湿原・知床等世界的自然観光エリア

道東・道北等道内広域観光ネットワーク

ダイレクトインバウンド



I Rの効果を活用した北海道ゲートウェイエリア都市機能強化

I Rと親和性の高いクルーズ船誘致、北極海航路によるイノベーション

- クルーズ船誘致：現在、苫小牧港は年間5隻程度だが、IRによる寄港数増加が期待できる。港周辺市街地への誘客にも活用
- IRのショーケース機能、MICEによって道農産品輸出に貢献（北極海航路発展とも相乗効果）

新千歳空港民営化・一体運営

- 2020年度から民営化。道内7空港との一体運営
- 国際路線につき新路線・増便、国際拠点空港としてダイレクトインバウンド機能強化
- 道内各空港との路線網充実強化、LCCにより道内移動コスト減少、道内周遊観光促進へ
- 2次交通との連携強化、将来的な北海道新幹線延伸を見据えた意見も有



国際リゾート構想との相乗効果

空港隣接型IRとしての相乗効果、ダイレクトインバウンド・周遊観光貢献へ

- アクセス活かした誘客、MICE需要
- IRの需要により国際路線誘致・道内路線充実によりダイレクトインバウンド、道内周遊観光への貢献
- IRの富裕層需要により、プライベートジェット、VIP専用レーン等の対応強化に貢献
- IRと空港施設の相互連携、空港商業施設とのカニバリ防止を検討

苫小牧港の新たな活用

- 日本国内に8か所ある「中核国際港湾」に指定。道内の港湾取扱量の約半分を占め、全国1位の内向取扱貨物量等、北日本最大の国際貿易港となっている
- 北極海航路：マラッカ海峡経由より距離・治安面有利、苫小牧港が拠点に。欧米との新たな航路による道産品輸出、自動車部品輸出、北のエネルギー拠点、北極及び寒冷環境の利用・研究拠点、操船訓練拠点化等の機会が検討

北海道ゲートウェイエリア都市機能強化

物流イノベーションと札幌・北海道ゲートウェイアクセス強化

アクセスを活かした新産業、北海道農産品の輸出促進

- ・ I Rに訪問したインバウンド客に北海道の食を堪能してもらい、農産品の輸出に貢献
- ・ 食と物流が一体化し新産業を形成、MICEにおいて北海道食品関係の展示会開催等
- ・ 2次交通との連携強化、将来的な北海道新幹線延伸への意見も有

臨空・臨海アクセスを活かした物流イノベーション

- ・ 陸海空の良好アクセス、24時間空港機能活用、食品加工・通信販売・医療・バイオ等新産業イノベーション
- ・ 北日本最大国際貿易港、全国1位の内向取扱貨物量の強み、地域企業の集積、新千歳空港アクセスを活かし、既存産業の物流機能向上や新産業創出へ
- ・ 苫小牧港に大型温度管理型冷凍冷蔵庫新設（投資額60億円 2019年4月操業改定予定）、食と物流の一体化した食産業基地の形成、北海道食の成長を促進。
- ・ 千歳臨空工業団地に大型物流施設「ロジスクエア千歳」を整備
- ・ 将来的に国際物流特区の検討、道路網整備も



国際リゾート構想との相乗効果

IRによる需要増加と交通アクセス強化の連携

鉄道関係

- ・ JR千歳線：インバウンド等需要増加対応（本数増加・観光客向け機能向上）、IR誘致時の鉄道ルート活用（沼ノ端駅拡張、特急・快速増加等）
- ・ 札幌延伸 北海道新幹線客の誘客（将来は新千歳空港までの延伸も）

道路関係

- ・ IRダイレクトIC設置による札幌・市街地とのアクセス強化
- ・ 道央道札幌北ICと札幌市中心部のアクセス整備
- ・ 札幌市内・道央観光地とのバスターミナルの整備（IR内もしくは新千歳空港）

札幌⇄北海道ゲートウェイアクセス強化

- ・ 300万以上の人口を抱える北海道の産業・学術・文化等の中心である札幌都市圏と北海道ゲートウェイ都市圏のアクセスは、札幌都市圏のリソースが道内外及びゲートウェイエリアの交流を促進することから、北海道全体の活性化につながる。
- ・ ヒト・モノはJR千歳線、道央道（2020年に苫小牧中央IC開通・市街地アクセスが向上）が大動脈となっている

国の観光立国への貢献 (ダイレクトインバウンド)



主な新千歳空港との直航便所要時間
(各空港から新千歳空港へ)

- | | |
|----------------|---------------------|
| • (ソウル) 2時間45分 | • (香港) 4時間35分 |
| • (プサン) 2時間20分 | • (バンコク) 6時間25分 |
| • (北京) 3時間50分 | • (クアラルンプール) 7時間40分 |
| • (上海) 3時間15分 | • (シンガポール) 7時間25分 |
| • (台北) 4時間 | • (ホノルル) 9時間30分 |



ダイレクトインバウンドの必要性

国の2030年インバウンド目標6,000万人達成のためには、地方へのダイレクトインバウンドの充実が不可欠(首都圏～関西圏のゴールデンルートを受入基盤はパンク状態)



北海道のダイレクトインバウンドのポテンシャル

北海道ブランド・
受入余地・体験型
観光の宝庫

- 北海道はアジア等から人気のブランド観光地
- 北海道全体の宿泊施設は受入余地が十分あり
- 自然体験、ウィンタースポーツ等の体験型観光による高観光収入単価への期待

新千歳空港民
営化と国際線
誘致

- 新千歳空港はアジアからの直航便多数(17都市)経由便含めると98都市から就航
- 今後、新千歳空港の民営化により国際線誘致・増便期待

ダイレクトインバウンドから国内への送客

地理的に近く、歴史面でも北海道と関係の深い東北観光地への送客

▶ 震災復興への貢献

- 充実空路・海路アクセス、北海道新幹線開通も
- 自然観光に係る親和性、当初の北海道開拓は東北出身者中心
- 北海道と異なる東北の歴史・文化・食農資源と併せて多様な周遊観光開発へ

充実した国内航空路線ネットワーク

▶ 他の国内観光地へ送客

(新千歳⇄羽田)	1時間30分	114往復/日
旅客数世界一		
(新千歳⇄成田)	1時間40分	36往復/日
(新千歳⇄関空)	1位時間50分	28往復/日
(新千歳⇄伊丹)	1時間45分	20往復/日

その他、仙台、中部国際、広島、福岡、那覇等
道外21都市に就航

2030年度末 北海道新幹線
札幌延伸（予定）

▶ 道南～東北の新たな周遊観光
ルートの開発へ

札幌からの想定時間

函館	45分
新青森	1時間19分
盛岡	1時間58分
仙台	2時間35分

(出典) 北海道経済連
合会「北海道新幹線札幌延伸
に伴う効果と地域の課題」より



重点国内連携地域：東北観光地への送客

道内広域観光ネットワーク充実に貢献

広域観光周遊ルート
日本のてっぺん、きた北海道ルート

道央観光地（近隣除く）
IRとの移動時間

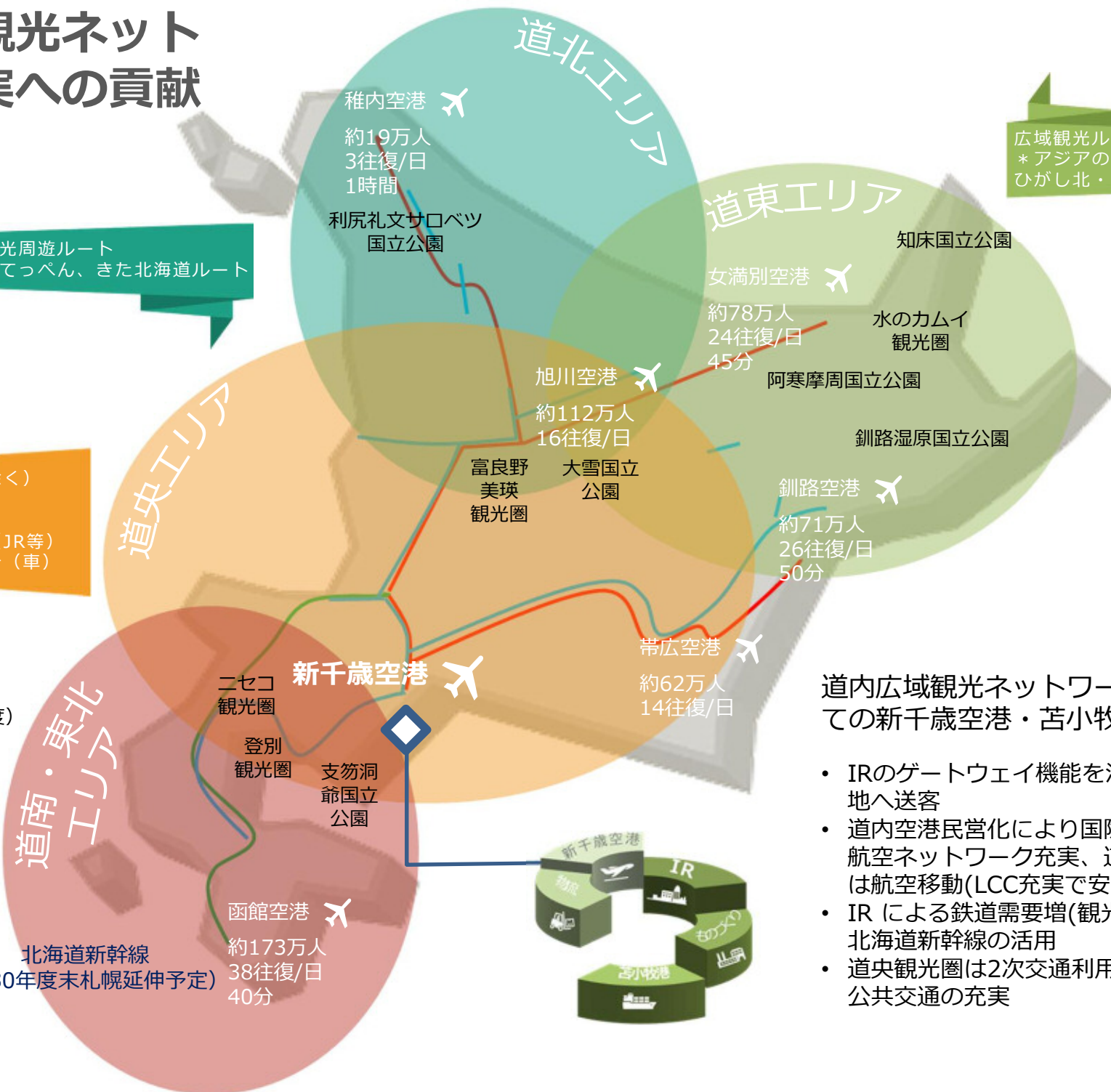
旭川 2時間30分（JR等）
富良野 2時間30分（車）

国管理空港データ凡例

- ① 乗降客数（平成28年度）
- ② 便数（平成29年2月）
- ③ 新千歳空港までの時間

— 新幹線
— JR特急
— 高速道路

北海道新幹線
（2030年度末札幌延伸予定）



広域観光ルート
* アジアの宝、悠久の自然美への道
ひがし北・海・道

道内広域観光ネットワークハブとしての新千歳空港・苫小牧IRの貢献

- IRのゲートウェイ機能を活かし道内観光地へ送客
- 道内空港民営化により国際線誘致・道内航空ネットワーク充実、道東等、遠隔地は航空移動(LCC充実で安く)
- IR による鉄道需要増(観光機能充実)、北海道新幹線の活用
- 道央観光圏は2次交通利用、路線バス等公共交通の充実

1日目 新千歳空港着～BRTで苫小牧IRへ～宿泊

2日目 自然観光施設体験～道東に興味を持ち、コンシェルジュで道東観光予約（IRのクーポンも使いお得な周遊観光セット）～夜はミュージカルとグルメを楽しむ

3日目 新千歳空港より釧路空港着（所要時間1時間）～釧路湿原観光～阿寒湖温泉宿泊（夜にアイヌショー、「阿寒フォレスト・ルミナ」を楽しむ）

4日目 屈斜路湖～摩周湖～ウトロ宿泊

5日目 知床半島ツアー参加～網走泊

6日目 女満別空港～新千歳空港～香港へ帰宅、次は冬季に阿寒湖でワカサギ釣りで再訪を予定



- ・道東地域は3つの国立公園と世界遺産である知床があり、世界有数の自然観光資源の宝庫
- ・観光入込客数はピーク時(平成11年度)の7～8割に留まる。交通アクセスやインバウンドの認知度が課題
- ・近年、道東は「観光立国ショーケース」等の国の施策にも積極参加
- ・阿寒湖温泉地区はエリアとしての積極的な観光振興を図り、世界のアドベンチャーツーリズムの聖地を目指す。

- 道東観光地域は世界レベルの自然体験観光の聖地となるポテンシャル。食・独自文化等も併せて、観光収入単価の高い欧米系観光客誘客可能。道内観光地の中で、今後、最もインバウンド客を増やし、付加価値を向上させる余地あり
- 道東観光のボトルネックであるインバウンドへの認知不足やアクセスの問題は、苫小牧IRによる、道東観光地の魅力の体験・紹介、ツアー手配、新千歳空港から道東空港への空路を使ったアクセス等により解決を促進

**インバウンド需要を最も延ばす余地
のある道東観光圏の振興に苫小牧
IRが積極的に貢献する**

IRと近隣観光の連携

IRと道央観光圏・近隣観光が連携して体験型観光の魅力の深化

- ・ 道央・近隣観光地との連携(オプションツアー、割引制度活用)
- ・ 各観光事業者・観光協会等と連携し、ストーリー性を持った体験型観光を提供
- ・ 支笏湖洞爺湖国立公園・ニセコ・ルスツスノーリゾート等への国道ルート整備も検討

札幌市内観光



ルスツ・ニセコ
スノーリゾート



洞爺湖



登別温泉



白老アイヌ



支笏湖



樽前山



樽前ガロー
錦大沼公園



近隣ゴルフ場



IR周辺はゴルフ場銀座
として全16コース国
内屈指の人気ゴルフ場
が密集



新千歳空港

苫小牧市街地



苫小牧駅・
港・沼ノ端周
辺に食・若者
文化発信地

競走馬産地



世界で活躍する
競走馬産地。毎
年7月に「競り
市」開催、海外
VIPも訪問

勇払マリーナ



長期滞在者向
けのマリンレ
ジャー拠点

美々川カヌー



ウトナイ湖



An aerial photograph showing a coastal region. The top half of the image displays a vast, green, hilly landscape with a patchwork of agricultural fields and some scattered buildings. A dark, irregularly shaped lake or pond is visible in the upper right. The bottom half of the image shows a coastal city with a dense urban area, a harbor, and a large body of water. The city is situated along a curved coastline, with the water extending to the bottom edge of the frame.

国際リゾート構想に沿ったまちづくり イノベーションリゾートの実現

前提

交通アクセス

- 最適
地区

高さ制限
地帯

ゴルフ場
密集地帯

北大研究林

苦東

土地条件

- ## 投資意向調査

- 事業者からの具体的な提案は全て当該地区を前提としている

国際リゾート構想に沿ったまちづくりの方向性 イノベーションリゾートの実現

人口増加

税収・納付金活用

IRや産業活性化、人口増加による税収増加を財源に公共施設の維持更新、子育て支援・介護施設の充実

IR従業員等による人口増加、空き家・集合住宅リノベーション、ホスピタリティ教育機関の設置

既存市街地

都市課題克服・
住民利便性向上等

イノベーション

スマートシティ

IoT・AI等を活用、都市課題の克服、住民・訪問客の快適度や利便性の向上、安全安心の確保実現

データ提供
イノベーション創出

イノベーション

IR関連、スマートシティ、臨空臨海アクセス、ものづくり集積を活かし、新産業創出（苫東・既存産業）

財源活用

人口増加
等による
活性化

訪問客快適度・施設運営向上

運営費
提供

仮説検証の
機会提供

札幌圏・ゲートウェイアクセスの活用

国際リゾートエリア

IR周辺リゾートエリア

IR

- ・ 国際リゾート構想の核
- ・ 魅力的な観光施設でインバウンド等を誘客、需要創出
- ・ 納付金・税収をまちづくり財源に

IRと親和性が高く、自然豊かな敷地を活かした事業実施

訪問客送客

魅力向上に活用

魅力向上に活用

送客

札幌圏送客（車）

インバウンド客等送客

訪問客送客

新千歳空港

苫小牧港

周辺観光へ

国内客送客

道東等
道内観光圏

送客による活性化

近隣観光資源

IRと連携し、さらなる魅力創出。ゴルフ場競走馬産地、勇払マリーナ、ウトナイ湖等自然観光資源

にぎわいエリア

苫小牧駅周辺にIR客を呼び込み、個性あふれる飲食・商業施設の集積

送客

新拠点エリア

沼ノ端駅周辺を市内各エリアとJR千歳線による札幌都市圏のアクセス拠点として整備

札幌圏送客（千歳線）

札幌都市圏

国内
海外

国際リゾート構想に沿ったまちづくり ゾーニングとアクセス整備



新拠点エリア・にぎわいエリアのまちづくりの方向性

新拠点エリア（沼ノ端駅周辺）

現状

- ・札幌・空港との交通利便性が高く、自然豊かな複合的生活拠点として、市内で唯一人口増加

開発の方向性

- ・札幌からIRへの鉄路によるアクセス拠点の整備（空港駅経由ルートに過度に集中することを防止）
- ・各エリアとの結節点としてアクセスを充実、イノベーションの担い手の居住も図る

にぎわいエリア（苫小牧駅・苫小牧港周辺）

現状

- ・苫小牧市の中心市街地は近年は空洞化し、空き店舗や老朽化建物割合が増加

開発の方向性

- ・IR訪問客をまちなかに誘客し、飲食・観光消費を市内にも取込み⇒IRと差別化した地域密着の魅力を創出
- ・市街地再生、IRと併せて「食・音楽の都」、苫小牧発若者文化の発信、住民にとっても魅力的なまちに

開発項目	検討課題
千歳線アクセス充実	・列車本数大幅増加 ・IR専用快速設置
各エリアとの結節点	・IRへBRT設置(沼ノ端西IC経由) ・にぎわいエリアへのBRT充実 ・将来的にIRへモノレール設置も検討
イノベーション担い手居住	・イノベーション・新産業の創出の担い手として、新たに居住するクリエイティブな人々の居住地区として想定。 ・彼らの志向にあったセンスの良いカフェ等の飲食店の集積(彼らの交流によりイノベーションが生まれる)

開発項目	検討課題
誘客アクセス	・IRからBRT設置(苫小牧中央IC経由) ・新拠点エリアからはBRT
食の都	・表町・錦町周辺を中心に、IRとは差別化した個性あふれ、親しみやすい個店の飲食施設の創出と集積。北海道食材も活用し、苫小牧を「食の都」としてブランド化（スペインの著名観光地で美食の街で知られるサンセバスチャン等を参考）
ナイトライフ振興、音楽の都	・夜まで安全に楽しめる飲食、エンタメ施設を集積 ・音楽・パフォーマンス等の苫小牧発の若者文化の発信
宿泊施設整備	・IRとは差別化したマス向け宿泊施設の整備。MICEの大規模イベント時の宿泊需要受入れ
港の観光機能強化	・市場やフェリーターミナルの港の観光・飲食の機能強化

国際リゾート・自然体験エリアのゾーニングとアクセス

国内外の富裕層やアーティスト（IR等で公演）等が長期滞在する保養施設ゾーン

商業・飲食施設ゾーン

自然を活かしたカフェ等飲食施設、物販施設等が整備されたゾーン

文化教育ゾーン
芸術・自然等をコンテンツとした博物館、農業体験施設・牧場・国際教育施設等が整備されたゾーン



ゴルフ場

国際リゾート エリア候補地

エリア内回遊BRT
(電気・自動運転)



新千歳空港ICからリゾート
エリアを通るアクセス道路

IC



新千歳空港と国際リゾートエ
リアのアクセス道路
(BRT設置)

道央道とのダイレクトIC
札幌都市圏、苫小牧市街地と
のアクセス

国道とのアクセス
札幌都市圏苫小牧市街地との
アクセス

苫小牧市街地と結ぶBRT

沼ノ端駅と国際リゾートエリアを
モノレールで結び、訪問客の苫小
牧市街地への誘客につなげる

長期滞在宿泊機能、健康
回復・増進等の医療機能、
森林体験プログラムの提
供や森林レク施設等（千
歳・苫小牧地方拠点都市
地域基本計画において拠
点地区として指定）

地方拠点法拠点地区
(研修滞在・スポーツレ
ク・診療)

イノベーションリゾート ースマートシティー

IoT・AI等を活用し、都市課題の克服、住民・訪問客の快適度・利便性の向上や安全安心の確保を実現、苫小牧モデルの魅力による住民増加、道内・国内都市への展開

スマートシティ
コントロールセンター

スマートシティプラットフォーム

民間出資により設立。IRからの委託費用・税金により運営

スマホ・センサー等よりデータ収集・分析
▶各対象への制御・解決策等のサービス提供

ビッグデータ(個人情報配慮)をAI分析⇒継続的進化・イノベーションにより収益源化を目指す

データ

サービス

サービス対象

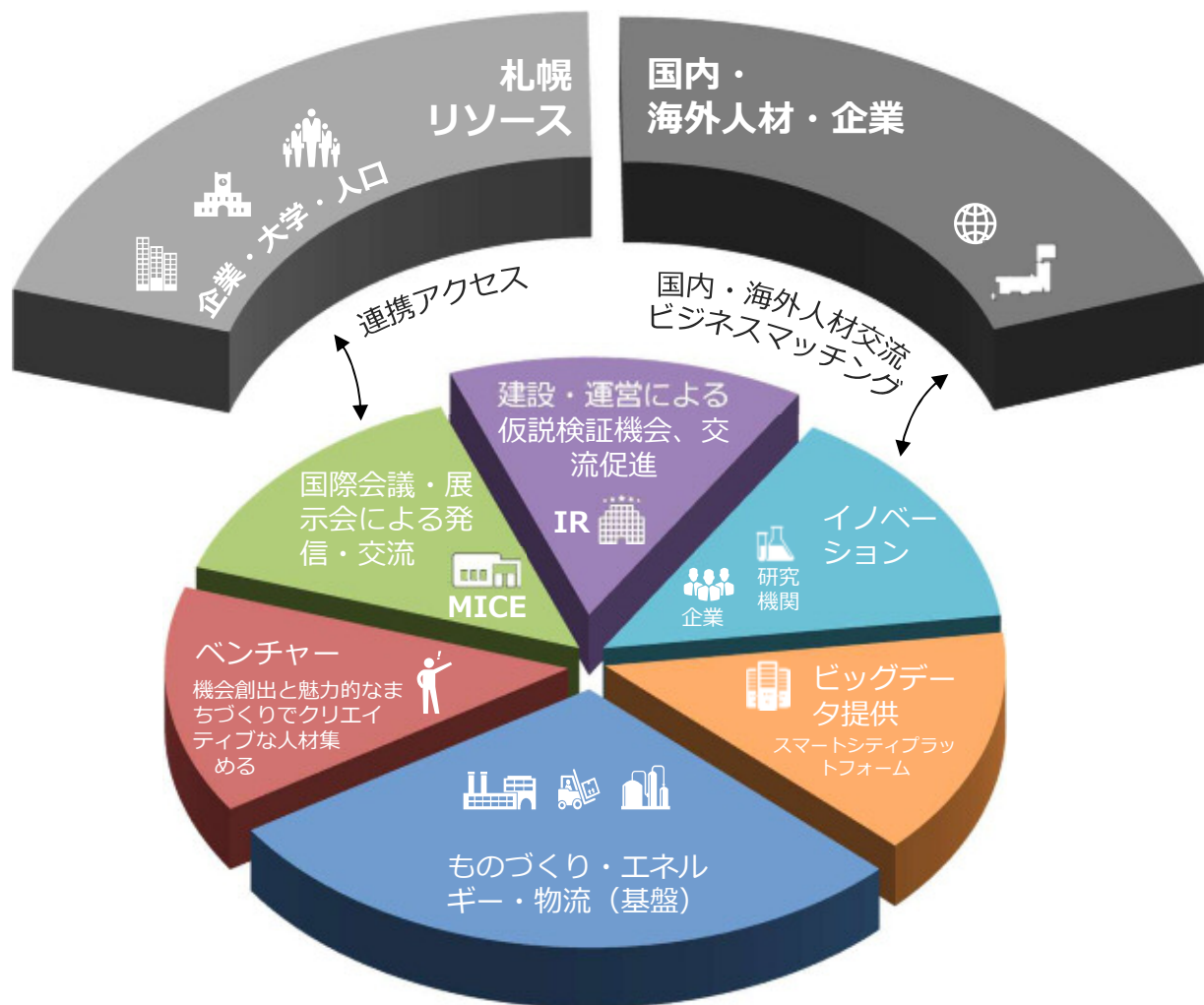


想定されるサービスメニュー

メニュー	サービス対象	サービス・利便性向上
渋滞緩和	市民・訪問客	IR客・周辺道路データ分析⇒全体最適運転・帰宅ルート・時間提供（料金調整等の誘導）
観光振興	訪問客	客志向・行動データ分析⇒最適観光ルートや店紹介・予約、料金調整
地元商業振興	観光・商業事業者	利用客等のビッグデータ提供⇒マーケティング・サービス向上・価格戦略検討に活用
防犯	市民・訪問客・行政等	監視カメラ等による防犯・警告・捜査支援
防災		リアルタイム情報提供、避難誘導・救助
健康・運動支援	市民・訪問客・行政等	市民・客の体調・活動データ分析⇒最適食事・運動情報、医療・介護・運動施設の紹介、医療・健康・運動改善商品・サービス開発
負の影響対策	IR施設	犯罪者等排除、依存症警告・相談、マネーローンダリング等発見
環境対策・エネルギー	処理施設行政	IR・市街地・各施設データ分析⇒最適な処理・エネルギー制御、環境負荷低減・省エネ
政策立案支援	行政	まちや市民等に係るビッグデータ提供⇒最適な政策立案・モニタリングに活用

イノベーションリゾート ―新産業の創出―

苫小牧ものづくり基盤・陸海空アクセスをベースに、IR・スマートシティでの仮説検証、国内外との交流機能やMICE等も活用し、北海道・苫小牧発イノベーション・新産業を生み出す



苫小牧等北海道ゲートウェイエリア

【想定される新産業】

テーマ	内容
食農：北海道基幹産業	スマート農業、バイオテクノロジー、食品加工6次産業、IR・MICEで発信、海外輸出へ
環境・エネ：環境共生リゾート	IR及びスマートシティ整備・運営において、最新テクノロジーを活用。環境負荷低減工法・省エネ施設・再エネ活用、リサイクル技術、スマートシティ制御技術、国内他、都市拡大続くアジア等への技術輸出へ
医療・健康：リカバリーリゾート	IR訪問客・市民の健康・食事・運動等データの解析により、健康維持・回復のための技術・サービスの開発、国内他、ストレス・高齢化進むアジア等へのノウハウ輸出へ
ホスピタリティ産業振興	労働生産性の低いホスピタリティ産業のIoT技術等を活用した生産性・サービス技術やインバウンド対応技術の開発、道内観光収益性向上や従業員待遇の向上へ
その他	アウトドア・スポーツ商品（IR施設・利用）、寒冷地対応技術（IR建設・運営）、自動運転技術（BRT等）

イノベーションリゾート ― 教育振興 ―

未来のイノベーションの担い手やクリエイティビティ溢れる新しい人材を、継続的に生み出す教育振興施策を実行する

未来のイノベーションの担い手となる、これからの人材教育とは？

- AI活用の拡大により、未来の人材に求められる能力は大きく変わる。
- クリエイティビティ、遊びが仕事に
- 自然の知恵、世界水準、国際交流
- 自ら学び・実践すること

効果：人口問題解消、活気あふれるまちに

- 若年層の流出防止
- 移住促進：国内外からの若年層等、クリエイティブな人材移住の促進（通学）
- IRの演者や従業員人材確保
- 教育MICE・プログラムは重要観光コンテンツ（安定収益、再訪期待）

想定される教育コンテンツ



インターナショナルスクールの誘致

先進的な教育理論の下、国際的視野と自ら考え、学ぶ姿勢を持ち、自然とテクノロジーの融合等の担い手を育成するインターナショナルスクールを誘致



観光・宿泊・料理・エンタメ関連教育機関整備

国内外から人材を集め、IRや市街地で働きながら学ぶ。卒業生は道内全体の人手不足解消に貢献



教育MICE・プログラム

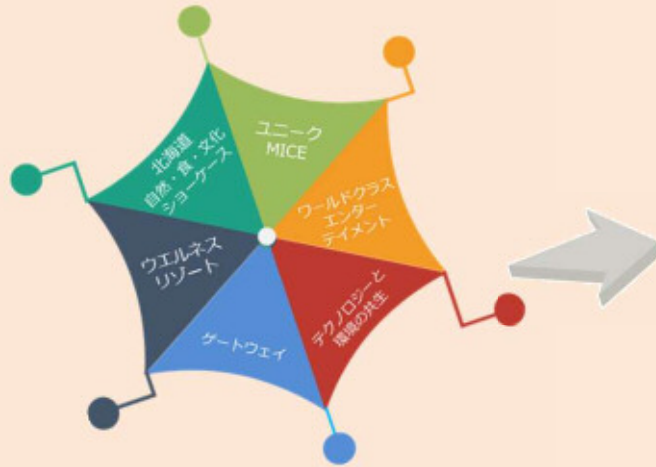
- IR及び周辺施設が連携し、国内外の若年層向け滞在型教育プログラムの提供
- 自然、農業、牧場体験、スポーツ（ゴルフ・ヨット等）、異文化交流、音楽、芸術等

国際リゾート構想の中核

WHITE
IR

魅力あふれる国際リゾート WHITE IRの構成要素

基本コンセプト



建設デザイン▶コンセプトを具現化した北海道観光のシンボルとなるような建設デザイン



IRと連携して、国際リゾートの魅力を創出

施設構成⇒ノンゲーミング施設はカジノ収益に頼らずとも採算がとれる魅力的なコンテンツを提供（カジノと相乗効果）



◆ 近隣観光との連携
IR周辺施設、近隣観光資源市街地にぎわいエリア

ヒト 人材確保・育成

人手不足も考慮した人材確保と育成、従業員待遇・やりがい向上

モノ 開発敷地・インフラの整備

インフラ

IRを支えるインフラの整備とコスト負担の検討

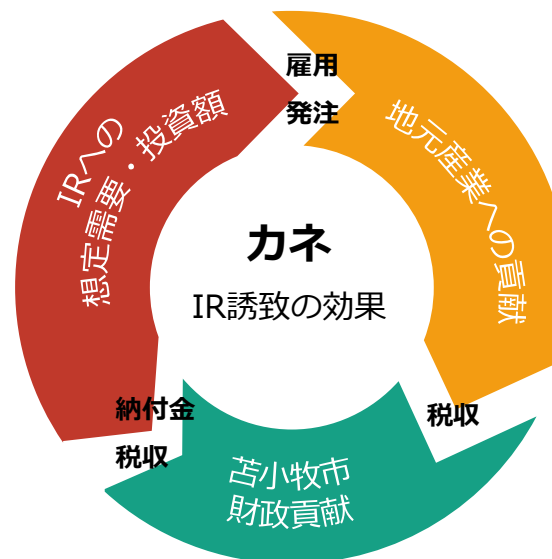
開発規制

都市計画法や環境アセス法の開発規制に向けた手続の検討

土地利用形態

合理的な土地利用形態・条件の検討

環境規制



負の影響対策

- ・ 対策徹底によるマイナス影響の抑制
- ・ 依存症対策
- ・ 周辺環境対策

誘致に向けた取組

- ・ 事業者選定・区域申請の推進体制
- ・ 関連する民間企業からの意見聴取と連携
- ・ 想定スケジュール

国際リゾート構想の中核施設 基本コンセプト

検討の 視点

北海道・苫小牧の強みを活かす

- 自然・食・文化等、北海道ブランド
- ダブルポート、札幌都市圏、自然豊かで広大な敷地、サプライヤー、近隣観光地

民間ノウハウの活用

- 海外IR事業者のカジノ、エンタメ、MICE等に係るワールドクラスのノウハウ
- 最新テクノロジー、道内観光等ノウハウ

顧客ニーズに応える

- インバウンド、富裕層ニーズ
- ファミリー層、シルバー層ニーズ

国・北海道のニーズに応える

- MICEビジネス国際競争力、滞在型観光モデル、世界に向けた日本の魅力発信
- 道内観光課題克服、ショーケース・ゲートウェイ

基本コンセプト

WHITE
IR

国際空港に隣接したアクセス至便なリゾート型
MICEというユニークな国際競争力を追及

世界で類を見ない自然
派IRの魅力演出。北海
道観光・産業のショー
ケースとなる

清涼な自然・森林を活
かした健康づくりと癒
しの提供。スポーツ
ツーリズム等



海外・国内事業者のノウ
ハウを活用し、顧客ニーズ
に応えるワールドクラスの魅
力を創出

最新テクノロジーを活かし
たECO建設・運営等、環境
との共生を追及

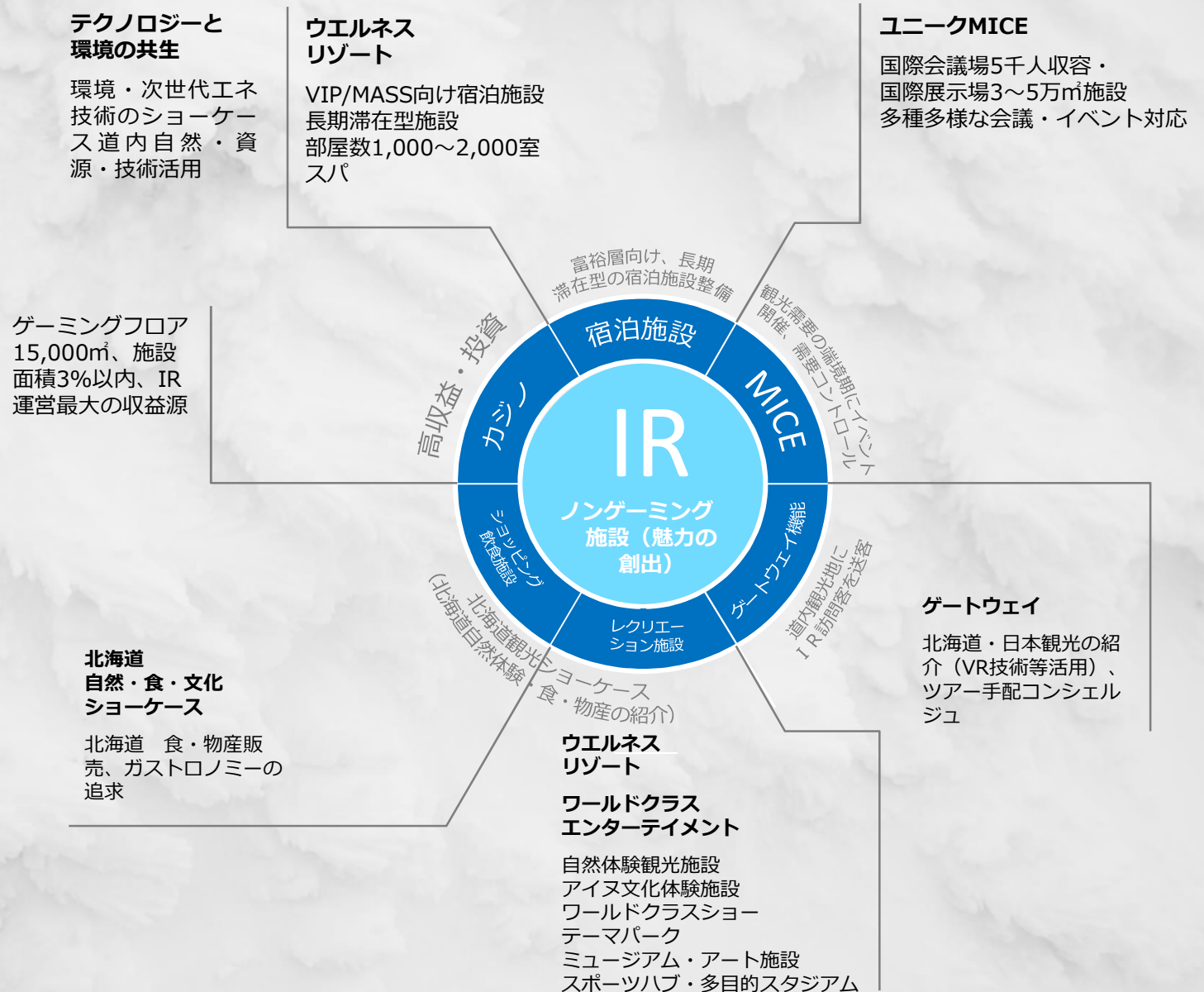
IR訪問客の道内周遊観光、ダイレクトイ
ンバウンドの国内観光地への送客

国際リゾート構想の中核施設 基本コンセプト

施設構成⇒ノンゲーミング施設はカジノ収益に頼らずとも採算がとれる魅力的なコンテンツを提供（カジノと相乗効果）

個別施設構成 （詳細は後述）

WHITE
IR



建設デザイン・イメージパース

苫小牧IRのコンセプトを具現化し北海道観光象徴となるデザイン
周辺の自然景観との調和、新千歳空港着陸時の空からの視覚
的インパクトも重要

▼事例1

人と自然のかかわり、北海道の自然を象徴、
物語の舞台、周辺環境・景観への調和を優
先したデザイン



▼事例2

海外IR事業者のブランドを表現、アイコニッ
クな施設によるインパクトを優先したデザイ
ン



MICE施設 ユニークMICE

MICEの効果

高い観光効果

- ・ MICE利用者は観光客より滞在期間が長く、平均消費単価も高い
※インバウンド支出額（1回当たり）
一般観光176千円 国際会議307千円
【出典 IR推進会議参考資料】
- ・ 好印象を抱くと、プライベートでの再訪問が期待できる

国際会議・展示会誘致による国内産業・学術等への貢献

世界の学識者・産業人等との交流、商談・見本市を通して、日本の学術レベルの向上、輸出促進等のビジネスチャンスの振興に寄与

観光需要の平準化への寄与

ビジネスでの利用は季節変動の影響が少ない、イベントの開催時期はコントロール可能



国際空港隣接MICE

- ・ 国際空港新千歳隣接のアクセスを活かしたインバウンドMICE需要を取り込み
- ・ アジアからのアクセス時間では首都圏と差はない



北海道の産業・学術に貢献

北海道が強い食農・自然・環境・観光等に係る会議・展示会等を誘致

【苫小牧IR MICEのコンセプト】

Meeting

企業等のミーティング
(会議)

Incentive

企業が従業員・代理店等の表彰などの目的で実施する旅行
(報奨・研修旅行)

Convention

国際団体、学会、協会が主催する総会、学術会議等

Exhibition

文化・スポーツイベント、展示会・見本市

リゾート型 MICE



- ・ 北海道ブランドを活用し、ダボス・アスペンのような世界的リゾートMICEを目指す
- ・ 北海道観光と連携し充実したインセンティブツアーの提供、高観光収入実現

北海道観光需要の平準化に貢献



需要の端境期にイベントを開催し、北海道の観光需要の平準化に貢献

世界に類のないアクセス至便なリゾート型MICEで国際競争力を追及

道内観光と連携し、インバウンドからの高観光収入実現を重視

MICE施設 ユニークMICE

規模ではなく質で勝負するMICE施設

- ・稼働率を重視した規模・構造
- ・多種多様な会議・イベントに対応できる間取り・機能
- ・最新テクノロジーにより会議・イベントサポート



開催会議・イベントの
ターゲット稼働率を重
視した規模・構造

- ・インバウンド誘客、コンセプト・施設活用、北海道産業・学術貢献の視点
- ・世界的ブランド力を有する会議・イベント誘致目指す

ポイント	機能
施設規模	需要の高い会議やイベント規模を想定した規模・間取りを採用。会議場（5千人収容）、宴会場、アリーナ、多目的ホール（展示会等）展示場 約3～5万㎡程度を想定
多種多様な会議・イベント対応	・小規模な研修・会議から大規模会議・イベントにまで柔軟に対応できる間取り・機能 ・複数の会議・イベントの同時開催
最新テクノロジー・環境共生	・映像・音響・通信・多言語等に係る最新テクノロジーを活用した設備・機材 ・最新技術と環境の共生のコンセプトに沿ったエコ設計、自然を取り入れたデザイン等

アフターコンベンション/近隣観光連携

会議・インセンティブツアー誘致のための重要な差別化要因

- ・飲食・ショッピング・シアター・カジノ等、IR内の充実したアフターコンベンション（市街地への誘客も）
- ・近隣ゴルフ場、競走馬産地等、ビジネス客親和性高いコンテンツが充実



MICE需要の誘致体制

- ・海外IR事業者のセールスチームネットワークも活用し、インバウンドを呼べる国際会議・イベントを誘致。顧客情報、パートナー、広告宣伝等の活用
- ・道内のコンベンションビューローとの連携（他の道内MICEとの棲み分け）

ポイント	誘致上の
インバウンド誘致	高観光収入望める国際会議・展示誘致注力 特にダボス会議のような世界的ブランドの会議・イベントの定期開催目指す
コンセプトとの親和性、北海道産業学術貢献	農林漁業、食品、バイオ、自然環境保全、エネルギー、スマートシティ、医療、フィットネス、アウトドア、北海道観光、少数民族保護等
IRコンテンツ・施設の活用	・音楽、芸術、文化、スポーツ関連イベントや教育を結び付けたイベント ・屋外シアター、オープンスペース、庭園等の屋外施設を活用も

自然体験型観光施設／飲食施設

北海道観光の最大の魅力である自然体験の入門コンテンツを提供

自然体験観光施設

- ・ 北海道の豊潤で多様な自然は国内のみならず、アジア・オセアニアでもブランドとして確立。欧米からの認知やアジア中産階級拡大により、今後、一層の自然体験観光ニーズ高まることが予想される
- ・ 自然体験等の体験型観光は満足度が高く、長期滞在型観光になりやすく、奥深さゆえに再訪の期待・観光収入単価が高い等の安定的な観光収入の成長に極めて有効

IR内：インバウンド及び国内観光客初心者向け体験施設

- ・ 興味を有する客が気軽に体験
- ・ トレッキング、フィッシング、カヌー、ウィンタースポーツ、農業、牧場、乗馬体験等



本格的に取り組みたい人を近隣観光地（ノーザンホースパーク・ルスツ・ニセコ・樽前山等）や道内観光地（道東等）へ送客

飲食施設

（北海道の食・農産品ショーケース）

- ・ 日本の食材は美味・安全安心で世界的ブランド。その日本の中で最も美味しいと言われる北海道の食材は世界一となれるポテンシャルがある。世界一のブランドを確立し、その質に見合った価格をとれるようにする。北海道の基幹産業である農業・漁業・食品加工業の振興、海外輸出の促進につなげる
- ・ インバウンド客・国内観光客に向けて、北海道の食材を多様な調理法で提供する。特に富裕層・プレミアムマス層向けに、上質な食材とシェフの最高の調理とクリエイティビティ、贅沢な空間とサービスを提供するガストロノミーエンタメを提供する高級レストランを誘致
- ・ MICEのアフターコンベンション、カジノ・ショー・ナイトクラブ等と各飲食施設がスムーズに連携できるような施設配置、運営の連携に留意する
- ・ 市内には調理人養成機関も設置し、北海道食材の美味しい調理法を学ばせる。IRやにぎわいエリアでも見習いをしながら、優秀な料理人を輩出

道内の食材を使い、ガストロノミーを追求。北海道食材を世界一のブランドへ

アイヌ文化の紹介・体験施設／ミュージアム・アート

エンターテインメントとしてのミュージアム・アートにより訪問客のクリエイティビティを刺激



ミュージアム・アート

- 文化芸術に関心のある層の呼び込み、若年層への教育的価値、地元住民への貢献
- 伝統的から先端・大衆的なコンテンツまで幅広く提供
- 海外ブランド力のあるミュージアム誘致
- 建物デザイン、施設内装飾もアートにする
- エンタメとしての展示の工夫。VR・AR技術の活用

photo credit: Viv Lynch Royal Ontario Museum via photopin (license)

アイヌ文化の紹介・体験施設

- 自然共生の精神性、魅力的で個性的な工芸作品や舞踊、自然活用の知恵、恵みを活かした食文化を体験してもらう。
- VR・AR技術を活用した展示。アイヌ舞踊ショーも伝統を尊重しつつ、現代音楽・舞踊や最新テクノロジーも活用
- ほかの道内アイヌ文化紹介施設との差別化

独自のアイヌ文化を楽しみながら学べる
体験型エンターテインメントを提供



ワールドクラスのショーによる魅力創出

- ネット配信等の進展が、逆にライブパフォーマンス体験の価値を高めている
- カジノとも併せてショーやナイトエンタメの充実により北海道観光に不足しているピースを埋める

エンタメ振興への貢献

- 周辺地区や札幌のエンターテインメント産業の底上げに貢献。音楽・ダンス・演劇等の育成機関を設立(ワールドクラスの教育機関を誘致)
- IR訪問客や市民向けに、市街地のライブハウス・ナイトクラブ・公共スペースにおけるパフォーマンス提供、苫小牧発の若者文化発信へ

ワールドクラスのショー・パフォーマンス



海外事業者のノウハウも活用し、ワールドクラスのショー・パフォーマンスを提供。北海道観光の弱点であるナイトエンタメを強化し、苫小牧発の若者文化発信にもつなげる

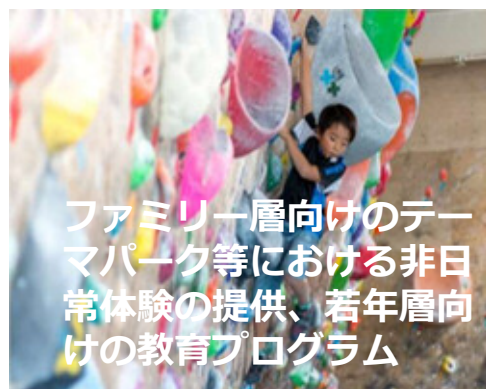
提供コンテンツ

- 演劇、ミュージカル、音楽コンサート、ダンス、サーカス、マジックショー等
- 海外IR事業者等のネットワークも活用し、海外有名アーティストを招へい。国内人気アーティストやベテランアーティストも招へい
- 内容が定期的に変わるため、訪問客に飽きさせず、リピーター顧客を創出が可能。ショーとMICEイベントを組み合わせ、同じ顧客層をターゲットにしたイベントの同時開催等も有効
- IRの名称を冠したジャズ・ロック等の大規模音楽フェスティバルを毎年開催し、IRの認知にも活用
- インバウンド客向けに歌舞伎等の日本古典芸能提供も。独自性の工夫が必要

シアター等の施設整備

- 稼働率を重視し、最も需要の高い3,000席程度の屋内シアターを中心とする。その他、規模・コンテンツ・季節に応じて、MICEの多目的ホールや屋外シアター等も活用
- シアターについては最新音響・映像技術を採用。海外有名アーティストのライブ映像の発信により、苫小牧IRを世界へアピール

幅広い客層に向けた魅力的なエンタメの提供/ゲートウェイ施設



ファミリー層向けのテーマパーク等における非日常体験の提供、若年層向けの教育プログラム

大規模アトラクションの開催

- 訪問客がIRコンセプト（北海道の大自然、日本・北海道の文化をテーマ）を体感できるような、施設全体を活用した大規模アトラクションの提供。プロジェクション・マッピングやVR/AR技術、レーザー、夜間照明等の最新テクノロジーを活用



インバウンド訪問客にVR技術をもって道内・国内の観光名所を体感してもらい、ツアー手配につなげる



ファミリー層・若年層向け施設・コンテンツ

- ファミリー層向けのテーマパークも検討。ただし、競争は激しく、リピーターを呼ぶための継続的なリニューアル、冬季対応等の課題有。自然・生態系・文化等をテーマにしたVR・AR技術を活用した非日常体験の提供
- 若年層向けには教育プログラムも有効。修学旅行や短期滞在において、歴史・文化・音楽・アート・エコ技術等が学べるコンテンツを提供

コンセプトを体感し、IRを象徴する大規模アトラクション提供



道内・国内観光ゲートウェイ施設

- 日本型IRでは、IR内に客を抱え込むのではなく、日本の旅の「ゲートウェイ」機能が重要視されている
- インバウンド客をターゲットとして、日本国内及び道内の観光地の魅力を認識してもらい、ツアー手配に結び付ける施設・サービスが必要である
- 具体的には、VR（仮想現実）技術を使い、実際にその場にいるかのような臨場感をもった映像・音響をもってインバウンド客に各観光名所を体感してもらう。その上で、国内の旅行代理店のコンシェルジュサービスによるツアー・宿泊手配につなげる
- 訪問客の動向データや滞在期間データ等を入手し、AIによって分析して、カスタマイズされたおすすめの周遊観光ツアープランを提示する等のサービスも提供する
- 各観光地の観光振興機関・DMOと連携し、提供コンテンツやツアープランは継続的に更新する

健康・ウェルネス／スポーツハブ

健康・ウェルネス

- ・ 高齢化進行やストレス社会、成長著しい中国等での環境悪化により、体と心の健康へのニーズが高まる
- ・ 富裕層向けの医療ツーリズムのポテンシャル（長期滞在・高い観光効果）



都市では提供できない、候補地の自然・森林・温泉を生かした癒し、健康回復コンテンツの提供

医療ツーリズム

- ・ 健康診断、温泉療法、森林療法、断食等ダイエットサポート、美容サービスの提供
- ・ 周辺地区の他、札幌等の医療機関との連携したサービス

温浴施設スパ

- ・ プライベート・カップル・ファミリーの各ニーズに踏まえた多様なサービス（マッサージ・他のエンタメとの組み合わせ）により 至高のリラックス体験を提供

市民健康促進

- ・ スマートシティのコンテンツの一環として、IoT等最新技術を活用し、訪問者や市民の健康・食事・運動データを収集・分析し、健康を維持するサポートサービスの提供



敷地・気候を活かした多目的スタジアム（コンサートやMICEイベントにも活用）、トレーニング・合宿施設整備

- ・ 近隣も含めた訪問客へのスポーツコンテンツ提供
- ・ 海外・国内プロスポーツ興行（海外IR事業者のネットワーク活用）、マラソン、ヨガイベント等。IRの認知にもつながる
- ・ 著名アスリートによるトレーニング・合宿利用、見学客需要の呼び込み
- ・ 2030年札幌オリンピック誘致への貢献
- ・ 市民向けスポーツ施設の充実（生涯スポーツの促進、クリエイティブクラスの呼び込み）
- ・ アスリートや市民の運動・健康データを活用した新ビジネス（スポーツグッズ開発等）

訪問客に本物の自然・森林・温泉による体と心への癒しと回復を提供。市民の健康維持にも貢献

スポーツハブ

スポーツツーリズム

地域と住民へのスポーツ振興

スポーツツーリズムと地域、住民のスポーツ振興へ貢献するスポーツハブの整備

カジノ

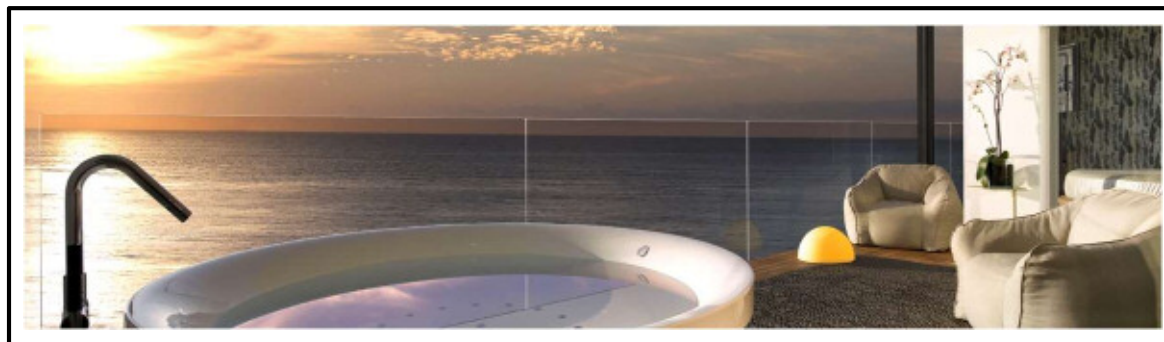
成熟社会に相応しい大人のエンタメ・交流ツールの魅力を追及。徹底した依存症対策の実施



- 責任あるゲーミング原則にのっとり、成熟社会にふさわしい大人のエンタメ・交流ツールに昇華、ノンゲーミング（ダイニング・ショー）と連携、コンセプトに沿ったデザインの工夫
- 富裕層向けと一般客層向けカジノ施設の区分
- 徹底した依存症対策、訪問者の訪問回数や行動等を分析し、声掛けや相談対応の取組み
- ゲーミング施設上限（3%範囲）他、規制遵守

宿泊施設

IR施設のハブとして、様々なコンセプト・価格帯の施設を整備。泊まること自体が目的となる魅力を創出



項目	ポイント
ターゲット顧客を踏まえた多種多様な宿泊施設の整備	- 多様な各顧客層の志向や消費力を踏まえ、異なるコンセプト・価格帯の宿泊施設を整備、豊富な選択肢提供 - 北海道に不足している富裕層向け5つ星ホテルを整備、コンシェルジュ等徹底したサービスを提供、道内の富裕層観光需要の創出に貢献 - 長期滞在客向け専用宿泊施設の整備 - 自然体験とセットとなったグランピング施設（贅沢なキャンプ）、最新テクノロジーを活用した宿泊施設等の提案 - インバウンド向けに国際ブランドホテルを誘致する一方で、国内有名旅館等、日本文化を体験できる宿泊施設
客室規模	- 投資意向調査を参考にすると、開業初年度で1,000～2,000室想定。開業後の段階的投資を検討している提案者が多い - IR訪問旅行者のIRと外部の宿泊比率がポイント。コンサートやMICE等の大規模イベント開催時には周辺地区宿泊施設利用想定
その他留意事項	- 宿泊施設はIRのハブとなる施設であり、特に会議場・飲食施設・カジノ・スパ等との導線重要。また、ターゲット客層の違いを踏まえた施設配置の検討（富裕層向け施設を近接させる等） - ホテル施設内にコンセプトに沿った展示品設置 - 宿泊客同士の交流を促すようなイベント開催

敷地や気候特性を活かした魅力の創出 と施設整備

自然豊かな広大な敷地、冷涼な夏季と降雪もある冬季を活用したコンテンツの提供と、年間を通じて楽しめる施設の整備



- 自然・森林・地形を活かし調和した施設構造及びデザイン
- 地形を活かした野外型シアターの整備。夏季に大規模な音楽フェスや野外イベントを開催
- 寒さが厳しい冬季においても楽しめる屋内エンタメ施設の整備、施設内のみで移動できる導線確保。一方で雪を活用したコンテンツ提供（東南アジア客には雪が人気）、雪遊び、ウインタースポーツ体験、冰雪アート等
- 公共スペースともなる庭園の整備、アイヌや日本古来のモニュメント・アート設置、フラワーフェスティバル等

公共スペースとしての のIRの活用

IRが公共スペースとして機能、地元交流や若者文化発信に貢献



- IRは訪問客だけでなく、市民にとっての憩いの場、公園・庭園・広場等が公共スペースとしても活用
- 地域や道内の祭り・イベントの開催、道内観光のショーケース効果発揮
- 路上パフォーマンス等提供、若小牧発若者文化の発信

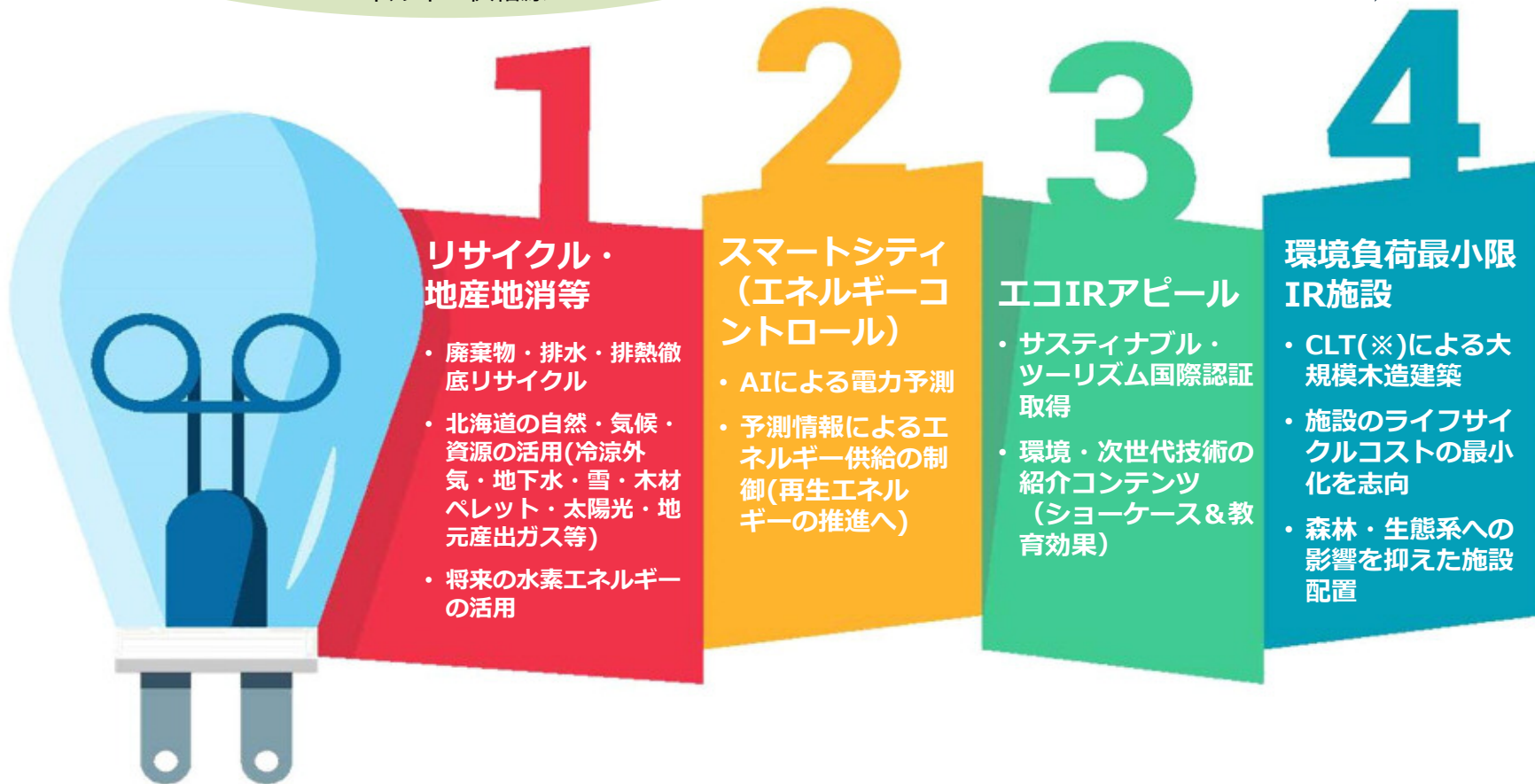
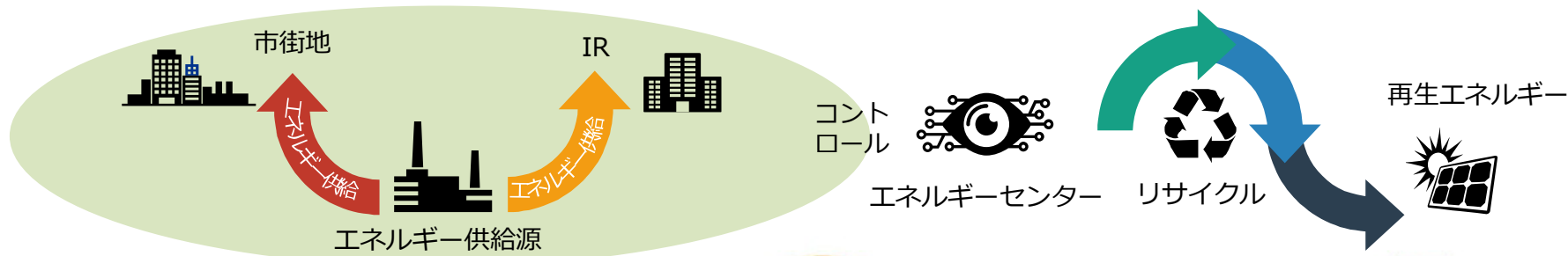
photo credit: Dakiny ORESABAND LIVE (L : ADD, R : SAKI) via photopin (license)

テクノロジーと環境の共生

基本方針

- ・ 最新テクノロジーを活用、環境共生型IRのコンセプト
- ・ IR建設・運営を通じて環境・次世代エネルギー技術のイノベーション・ショーケース

・ 道内の自然・資源（地産地消）・技術の活用



(※)CLTは、Cross Laminated Timber(クロス・ラミネイティド・ティンバー)の略称で、ひき板を並べた層をクロスに重なるように板を貼り合わせた、木の塊のような分厚い素材のこと。CLTの特徴は、これまで建築の資材として使用されてきた集成材よりも強度が安定していること。また、高い断熱性や耐震性、遮音性、耐火性もCLTの特徴である。

IRがもたらす経済効果、インフラ、雇用面の検討



WHITE IRが生み出す効果と国際リゾート構想における活用

観光振興

- ダイレクトインバウンド・国内観光地への送客
- 道内観光地への送客
観光付加価値向上
- 近隣観光地への送客
- 納付金を活用した道内・近隣観光の魅力向上

まちづくり

- 訪問客の市街地への送客による活性化
- BRT等公共交通機関整備
- 雇用創出による人口増加
国内外からの移住促進
- 納付金・税収を活用した活気あふれるまちづくり

北海道ゲートウェイ機能強化

- インバウンド誘客・道内観光地送客による航空需要増加
- クルーズ船誘致への貢献
- 札幌都市圏との2次交通（JR北海道・道央道等）ネットワーク強化への貢献

産業・イノベーション

- スマートシティ
- 新産業創出
- 道産品の海外輸出促進
- 教育振興
- 地元産業振興

活用

機会創出

IR建設・運営他関連事業に伴う新たなビジネスチャンス

需要創出

インバウンド等大規模誘客

雇用・調達創出

雇用増加、地元企業への発注と需要創出

国際リゾート構想の要諦 ▶
当該IR効果を課題解決に活用する



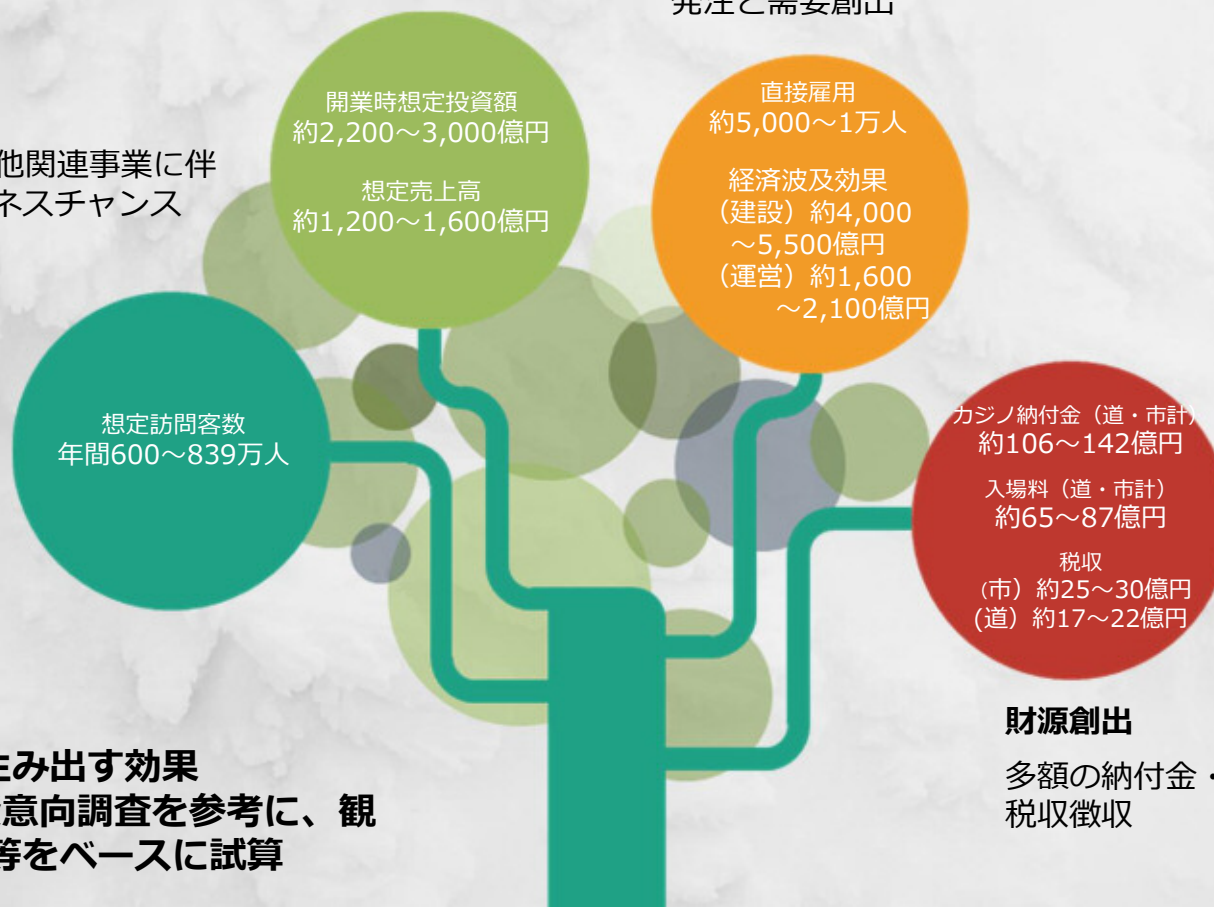
観光立国
インバウンド



周遊観光
付加価値増加
交通ネットワーク強化



人口増加、新産業
まちの活性化



財源創出

多額の納付金・
税収徴収

想定投資額等（RFIの事業者提案を基に推計）

開業時想定投資額

約2,200～3,000億円

※段階投資により計3,000億円超の提案有り

事業利益により7～9年で回収を想定

※税引利益に特別損益、支払利息、減価償却費を加えた利益、投資額回収源泉

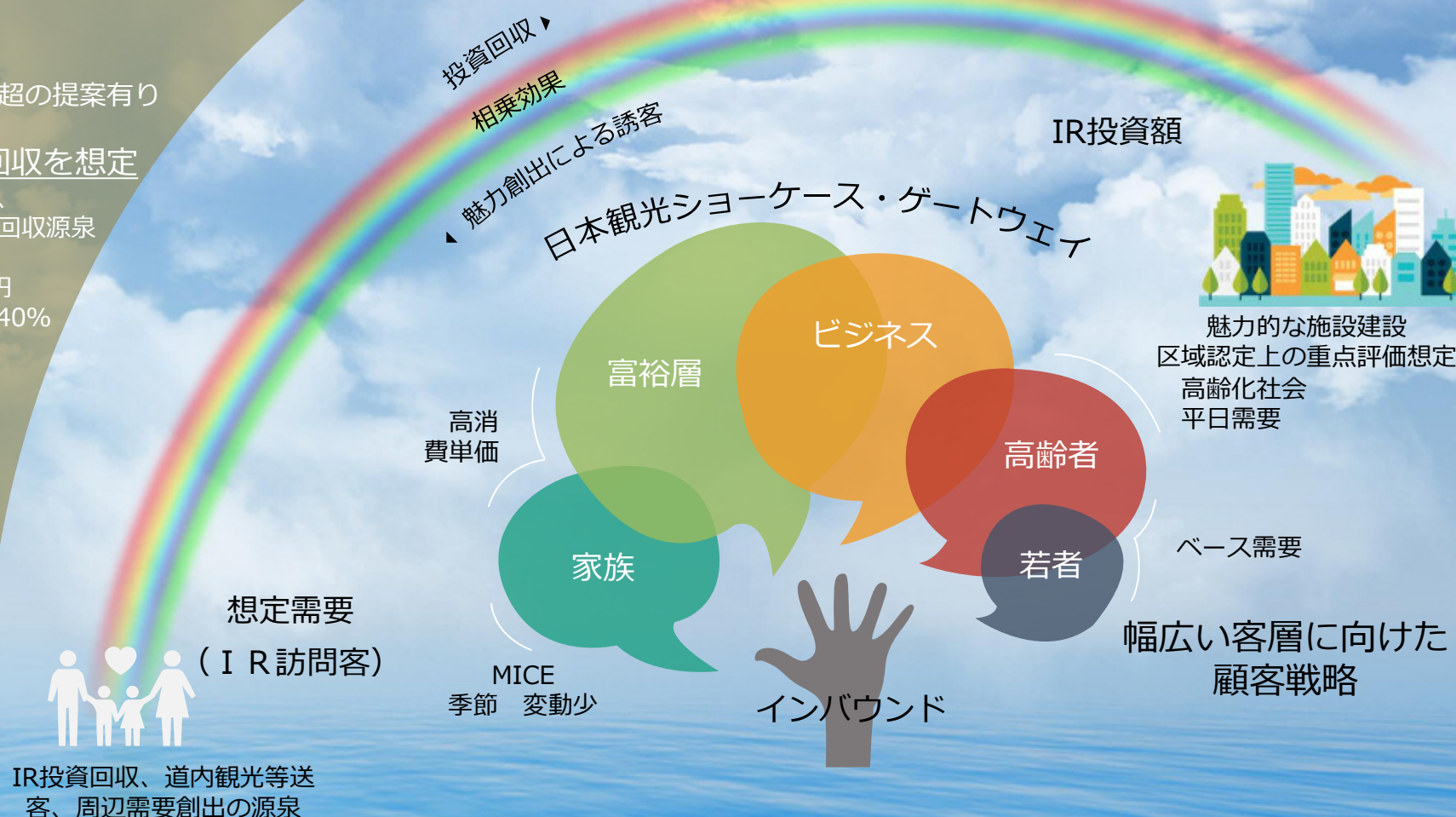
想定売上高 約1,200～1,600億円
うち、ノンゲーミング収益割合 40%

参考）海外IR施設投資額事例

※IR推進会議資料より

- † マリーナ・ベイ・サンズ シンガポール 約4,870億円（2010年）
- † ザ・パラッツォ ミラスベガス 約2,100億円（2007年）
- † ボルガータ ミアトランティックシティ 約1,276億円（2003年）
- † サ・ヴェネチアン・マカオ 約2,809億円（2007年）

想定需要・投資額等



想定訪問客数（RFIの事業者提案を参考に観光統計等をベースに推計）

顧客層	圏内客	約300万人	訪問客数	約224～336万人	年間	約600～839万人
	道内客	約246万人		約66～89万人		※延べ人数
	国内客	約577万人		約190～239万人		
	海外客	約500万人		約125～175万人		

ゲーミング 利用者数 (内数)	約66～99万人
	約20～26万人
	約131～164万人
	約84～117万人

※ゲーミングだけではなく、併せて飲食・エンターテイメント等のノンゲーミングも利用

地元産業への貢献

想定経済効果



- 大部分は道内・地元で供給可能(優先発注義務)
- IR事業者と地元産業が連携し、付加価値・生産性向上

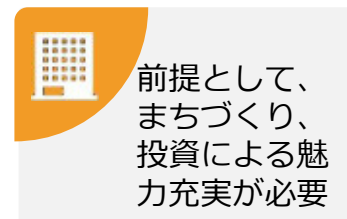
建設

建材、工事、設備設置等

運営

物品・食材購買、清掃・維持管理委託
イベント運営等

想定送客効果



建設 総投資額2,200~3,000億円前提（投資意向調査を基に推計）
生産誘発額 4,000~5,500億円 就業誘発人数 33~45千人

運営 売上高年間1,200~1,600億円前提
(投資意向調査参考)
生産誘発額 1,600~2,100億円
就業誘発人数 17~21千人

※IR直接雇用者数想定
5千~1万人
(投資意向調査参考)

- IR内で完結させない、周辺地区との総合エンタメ

- IRと周辺地区の差別化（カニバリ防止）

⇒異なるコンテンツ、ターゲット客層（IR：高級路線、周辺地区：MASS層向け等）

- IR内の宿泊施設規模ポイント（部屋数設定とターゲット客層の区分）

想定送客効果試算(苫小牧・千歳等)

IR訪問客の送客 129~169万人
(うち宿泊43~57万人)

129~
169万人

観光消費額

約150~190
億円

インバウンドと国内客のうち、以下の割合が訪問と想定

- 宿泊者 IR以外宿泊者の15% 消費単価 18,000円
- 近隣観光訪問者 20% 消費単価 8,000円
- IR宿泊者市街地訪問者 IR宿泊者の10% 消費単価 8,000円

IRによる苫小牧市への財政効果

歳入増加見込

- ・ カジノ納付金（北海道・市合計） 約106～142億円 ※（国）約106～142億円
- ・ 入場料（北海道・市合計）約65～87億円 ※（国）約65～87億円
- ・ 税収（市）約25～30億円 （北海道）約17～22億円 ※（国）約48～66億円

歳出増加対象

- ・ 依存症対策コスト
- ・ スマートシティ運営コスト
- ・ 周辺環境対策コスト

※IRのために必要なインフラ整備は原則、事業者負担(事業者整備又はインフラ負担金)を検討する。但し、事業者側の負担(土地利用コストとセットで検討)についても十分に配慮する。

(参考) 苫小牧市 平成28年度 歳入 796億円 歳出 783億円

周辺観光振興・まちづくり充実、イノベーション促進
公共施設老朽化対策、公共交通充実(将来のモノレール投資等)
子育て教育支援、格差是正対策、福祉促進の財源へ

※上記に見込んでない財政効果

- ・ IR事業者から地元産業への発注による税収（建設+運営）
- ・ IR訪問客が市内にて観光・宿泊・飲食・物販を行ったことによる税収増加
- ・ イノベーション・スマートシティにより生まれた新産業による税収増加
- ・ IRや既存・新産業への従業員・家族の移住による人口増加がもたらす税収増加

さらなる住民生活と街の
魅力向上に活用

誰もがあこがれるまち
「苫小牧ブランド」の確立



雇用に係る課題、人材募集・育成、労働生産性・待遇向上



- 投資意向調査によると、直接雇用は5000～1万人程度（現従業員数84,000人 6～12%増加）
- 少子高齢化による労働力人口減少によって、北海道は人材不足の状況へ（2010年274万人⇒2020年245万人）
- 特に観光・宿泊業は深刻な人材不足。背景として、他業種と比較して相対的に低い待遇等があり



- 雇用増加だけでなく、IR導入により、北海道全体の観光業の労働生産性と従業員待遇の向上を目指す
- 北海道内の観光業その他人材確保のゲートキーパー機能を果たす

付加価値
(収益) ÷ 労働時間

向上

効率化

- 客ニーズに応じた多様なコンテンツ
- 体験型観光の提供
- ナイトライフコンテンツ充実
- 富裕層の誘客
- 長期滞在客の誘客

- マルチタスク化
- 作業改善・標準化・整理整頓
- IT化、機械化
- AI・IoT・ロボット等活用



従業員待遇の向上

モチベーション向上

- 賃金UP
- 時間外労働削減

- 職場で協力しながら自らの創意工夫により継続的改善
- やりがいのある職場従業員定着へ

上記をIRだけでなく、北海道観光全体で実現
IRは訪問客の道内観光地への送客、富裕層等の需要創出
と最先端の観光・宿泊業のモデルケースとなることで貢献

- 北海道に限らず、国内外より幅広く人を募集。市及び周辺地区への移住を促進（市街地に従業員宿舍等建設）
- IRでの好待遇・働きやすさ、自然豊かな職住等により募集
- 国外人材については、観光等の専門性有する人材の他、留学生・技能研修性等も活用。一部、規制緩和も検討
- 市や周辺地区の母子家庭や生活困窮者への奨学金制度なども検討。海外事業者では奨学金制度の実績あり

- IR内での従業員トレーニング及びOJT
- 市街地にホスピタリティ、料理、エンタメ関連の教育機関を設置。学生はIRや近隣観光地・市街地でアルバイトし、実務経験を積みながら、人材確保に貢献
- 上記教育機関の卒業生はIRに加えて、北海道全体の観光・宿泊業の人材確保に貢献

インフラ整備・土地利用・開発規制・環境規制

(現状) 民有地

(検討)

- ・ 利用形態（事業者保有、公有地賃貸、民有地賃貸）と利用条件（譲渡価額・賃料・賃借期間）
- ・ インフラ負担とセットで利用形態・条件を設定。事業者の負担を減らし、投資促進につなげる。

土地利用

環境規制

(現状)

自然豊かな森林地帯、環境影響は最小限にする。開発面積によっては法律に基づく環境アセス(法アセス)が必要

(検討)

いずれの機会においても候補地の環境情報を整理するなど、準備段階から環境に配慮した準備、検討を行う。

(現状) 現状市街化調整区域(開発許可必要)

(検討)

- ・ 市街地編入 又は市街化調整区域のままの開発(地方拠点都市基本計画変更、地区計画設定等)
- ・ 手続期間・ハードルを考慮し、手法を選択し、要件を整理。事業者選定までに対応完了を目指す。

開発規制

インフラ

(現状)

インフラ未整備

(整備内容)

交通アクセス：前述参照、上下水道は井戸水・浄化槽等の整備、もしくは公共上下水道連結。品質、コスト、環境影響等を考慮、その他電気・ガス整備

(投資額負担)

原則、受益者負担を検討(事業者整備・負担金徴収等)。事業者が負担に応じるような条件の検討必要



ギャンブル依存症等の負の影響対策

負の影響の懸念と対策

負の影響

カジノを原因とする社会へのマイナスの影響のリスクあり



国の検討

国は各国の事例を参考に、世界最高水準の規制を検討。具体的にはIR実施法で規定する

Responsible Gaming (責任あるゲーミング)

社会的懸念事項をコントロールできなければIR事業参入・維持は不可（義務+自主的取組）

法規制・ライセンス・モニタリングにより事業者を統制。
官も直接対策実施

顧客

IR事業者

国・自治体規制機関

入場制限
相談・治療

ギャンブル
依存症

スキミング
従業員
犯罪

MICS
施設内監視

入場制限
ギャンブル教育

青少年
悪影響

マネー
ロンダ
リング

疑似金融機関
並み規制

区域開発
環境規制

地域・
環境悪化

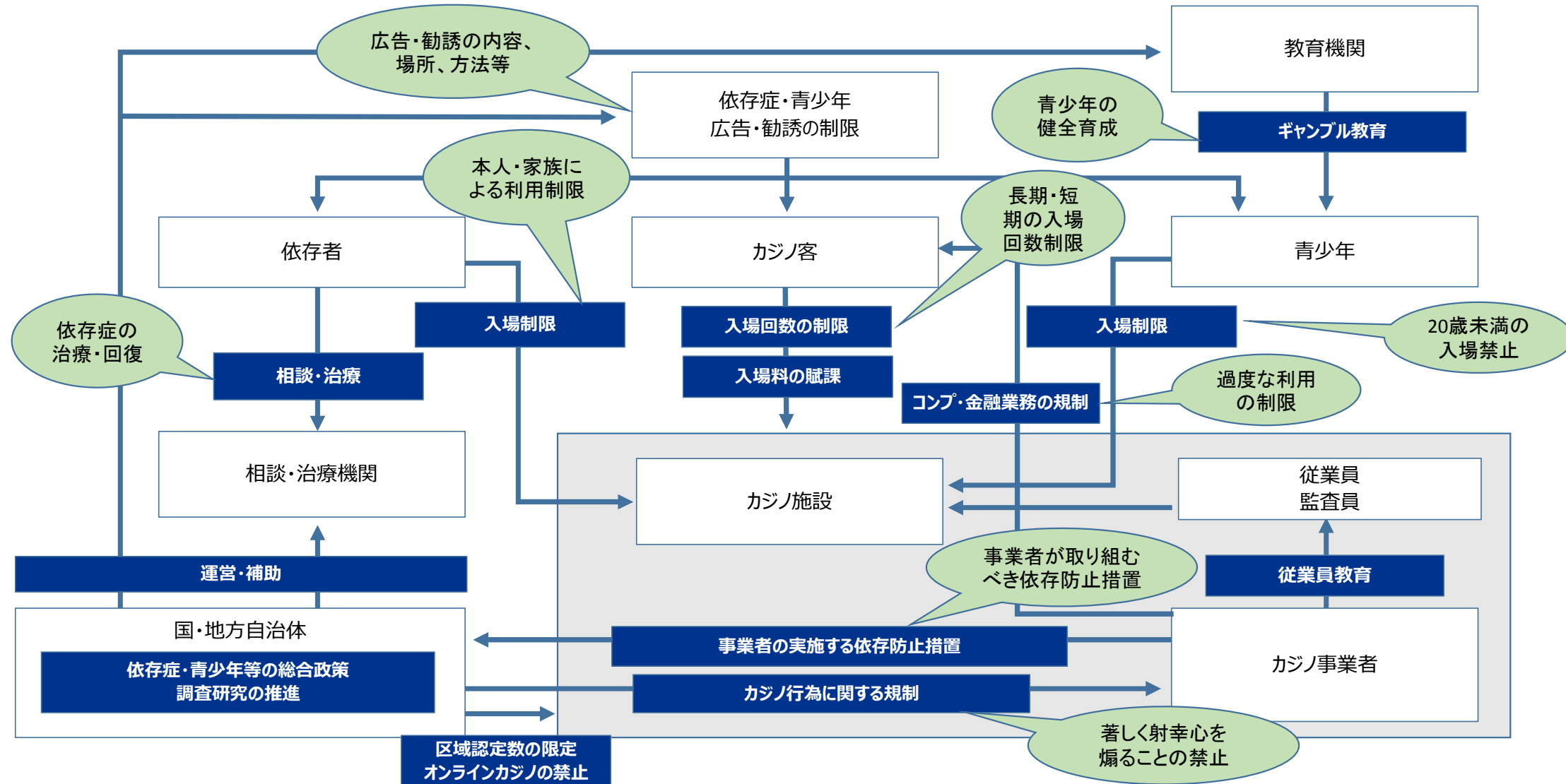
反社会
勢力介入

ライセンス管
理、入場制限

負の影響の懸念と対策

日本型IRギャンブル依存症等対策全体像(検討過程)

IRにおいて検討されているギャンブル等依存症対策



既存ギャンブルとカジノの依存症対策の比較



- ◆ 現状、問題となっている依存症はパチンコや公営ギャンブル等の既存のギャンブル等が原因
- ◆ IRのカジノは機会が限定され、既存のギャンブル等よりも厳格な対策を検討（既存ギャンブル対策にも影響）

※本構想策定段階で、国会審議中

項目	既存のギャンブル等 (今後、実施される取組みも含む)	IRのカジノ
機会の限定	➤ 公営競技は競技場限定、開催回数制限あり ➤ パチンコ営業所の数の限定はなし	➤ IRの区域数の上限を3か所とする※ ➤ 1つのIR施設につき1カジノ※ ➤ カジノ施設の規模に上限値（絶対値）を設定※
入場制限 入場回数の制限 入場料の賦課	➤ 入場回数は規制無し ➤ 入場料について、依存症対策目的の入場料の賦課は無し	➤ 長期間と短期間における回数制限 ➤ マイナンバーカードを活用した本人確認 ➤ 外国人旅行者以外の者に対して入場料6,000円を賦課※
金融、ATM に関する規制	➤ 競走場・場外券売場のATMキャッシング機能の廃止（平成29年度中に全て廃止）	➤ カジノ施設内でのATM設置を禁止
本人・家族申告 の利用制限措置	➤ 「本人申告によるアクセス制限」の運用を開始 ➤ 「家族申告によるアクセス制限」の仕組み構築（中央競馬・パチンコは平成29年12月より、その他の競技では平成30年度から順次実施）	➤ 本人・家族申告による利用制限措置の実施
青少年保護	➤ 公営競技は、未成年の投票券等購入を禁止 ➤ パチンコは18歳未満の入場禁止	➤ 20歳未満のカジノ施設への入場禁止

ギャンブル等依存症に対して苫小牧市が今後取り組むべき対応策の検討



北海道と苫小牧は、既存ギャンブルも含め、事業者、医療機関、自助グループ、民間機関等と連携を図り、北海道の特性も踏まえた地域の依存症対策の中心的役割を果たす

依存症

患者

治療

懸念

早期相談
入場規制

がある人

娯楽として

ギャンブル

をやる人

依存症
予防対策

(大部分の人)

ギャンブル
教育

ギャンブルをしない人

- ◆ 医療提供体制の整備
- ◆ 人材の確保
- ◆ 相談支援
- ◆ 社会復帰の支援

- ◆ 民間団体の活動支援
- ◆ 連携協力体制の整備

- ◆ 治療・回復活動
- ◆ 社会復帰の支援

- ◆ 相談窓口設置

- ◆ 相談窓口設置
- ◆ 本人・家族申請による利用制限措置

- ◆ 相談窓口設置

- ◆ 実態調査
- ◆ 調査研究の推進
- ◆ (依存症研究機関の設立)

- ◆ ATM禁止、貸付規制等

- ◆ 事業者の依存症対策モニタリング
- ◆ 事業者の依存症対策提案の評価

- ◆ 従業員教育

- ◆ 入場回数制限

- ◆ カジノ管理委員会への報告

- ◆ 内部管理体制の整備

- ◆ 広告規制

- ◆ 啓発活動

- ◆ ギャンブル教育

- ◆ 啓発活動

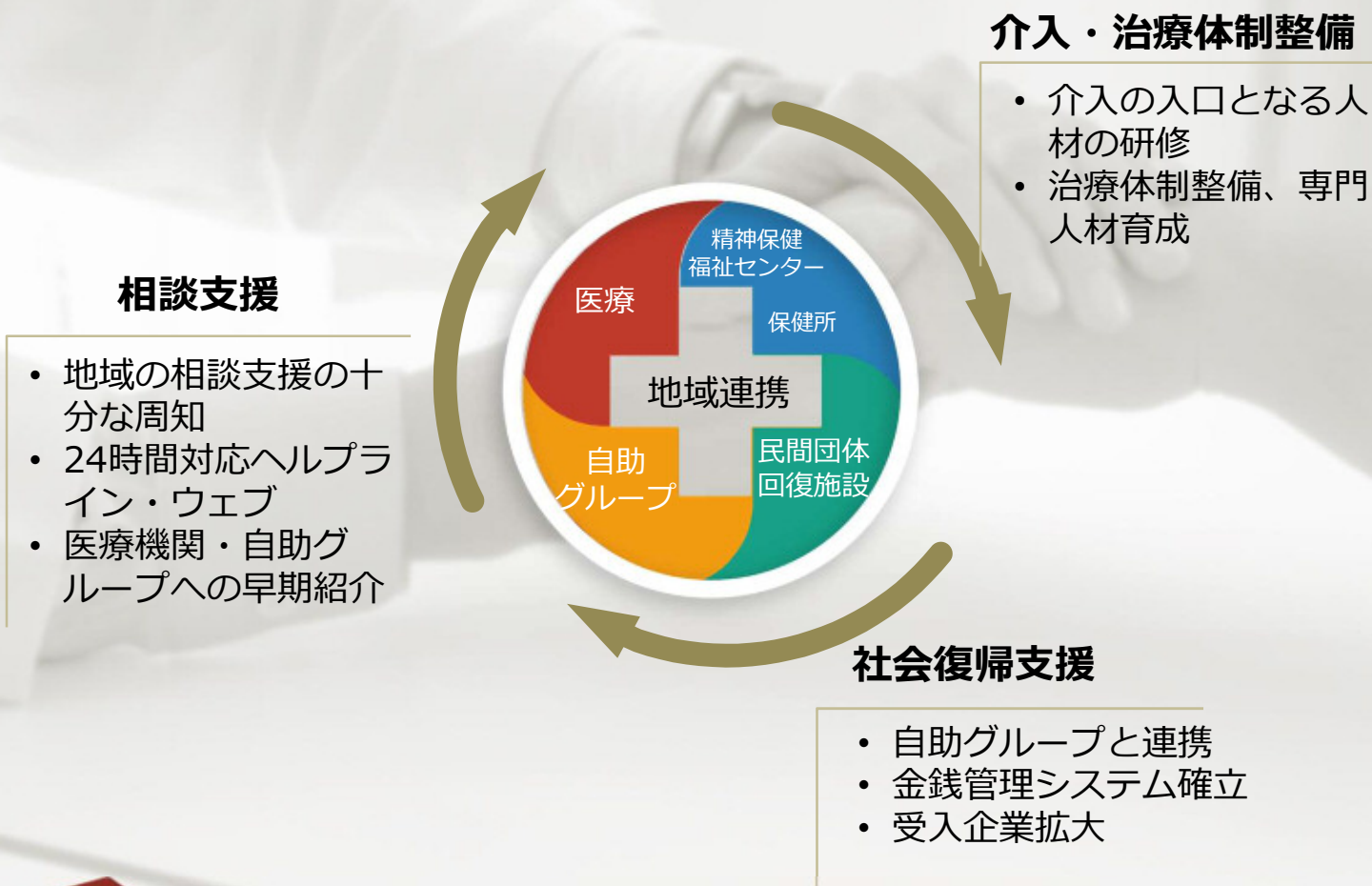
国
規制

自治
体

事業
者

民間
団体

苫小牧の重点取組事項：既存ギャンブルも含めた依存症損失の最小化へ



ポイントは自助グループ支援

- きっかけは家族からの相談→本人介入（家族被害を抑える）
- ボランティアの自助グループだからこそできる柔軟な介入・対応
- 過去に問題解決した人が当事者にあった自立の道をサポート
- 依存症者の居場所をつくり、相互協力による継続的な回復・社会復帰支援



- 活動コスト助成・場所提供
- 関係諸機関との連携促進
- 相談・周知促進による早期介入

※上記は苫小牧だけでなく、北海道・周辺自治体と連携しながら進めることを想定

苫小牧の重点取組事項：既存ギャンブルも含めた依存症損失の最小化へ



- ◆ カジノ納付金等を活用し、より充実した依存症対策を実施
- ◆ 依存症研究機関を設立、世界最高水準の実践的依存症対策の継続的な開発と展開に努める

ギャンブル教育

依存症の予防として、ギャンブル等に関する正しい知識を身につける

- ◆ 中学や高校までに実施
- ◆ ギャンブルへの理解促進、問題発生時の解決方法等

事業者選定等

適切な依存症対策の実行能力をIR事業者の必須条件として、事業者評価、実施状況のモニタリング

- ◆ 事業者の海外での実績、提案を吟味し、有効な依存症対策を整備・運用しているIR事業者を選定
- ◆ IR事業開始後はカジノ管理委員会と連携して、監査結果や事業者の自己評価を定期的にモニタリング

依存症研究機関の設立

運営体制

- ◆ 独立した公的研究機関
- ◆ カジノ納付金、既存ギャンブル事業者からの拠出金、委託研究費により運営

研究項目

- ◆ 依存症発生・治療メカニズムの研究と開発
- ◆ 有効な予防対策、早期相談・治療手法
- ◆ ビッグデータ等最新テクノロジーも活用

ポイント

- ◆ 事業者、医療機関等と連携し、実践的な対策手法を開発、展開
- ◆ 北海道の特性を踏まえた研究

周辺環境対策

住民の懸念事項：治安・風紀等の悪化 ▶ 周辺環境対策が極めて重要

周辺再開発

- ・ 無秩序な開発防止、周辺・市街地の開発

⇒エリアマネジメント手法の活用や、条例等により
リゾート構想に沿ったまちづくりを展開

反社会勢力の排除

- ・ 反社会勢力介入、違法賭博、闇金融、違法風俗は市内から完全排除を徹底



各対策の財源としてカジノ納付金を活用

犯罪数増加のリスク

- ・ 観光客の増加に伴い、犯罪の絶対数が増加するリスクがある。
- ⇒警察や民間事業者による防犯強化に加え、監視カメラ等を活用した防犯対策を実施（スマートシティ）

青少年の健全育成

- ・ 教育機関周辺や住宅街における治安・風紀対策は常に徹底する

風営法対応

- ・ 対象となる施設の許可・届出の方針については警察や住民とよく協議する
- ・ 魅力的な市街地づくりとのバランスを図る(ダンスクラブ等)

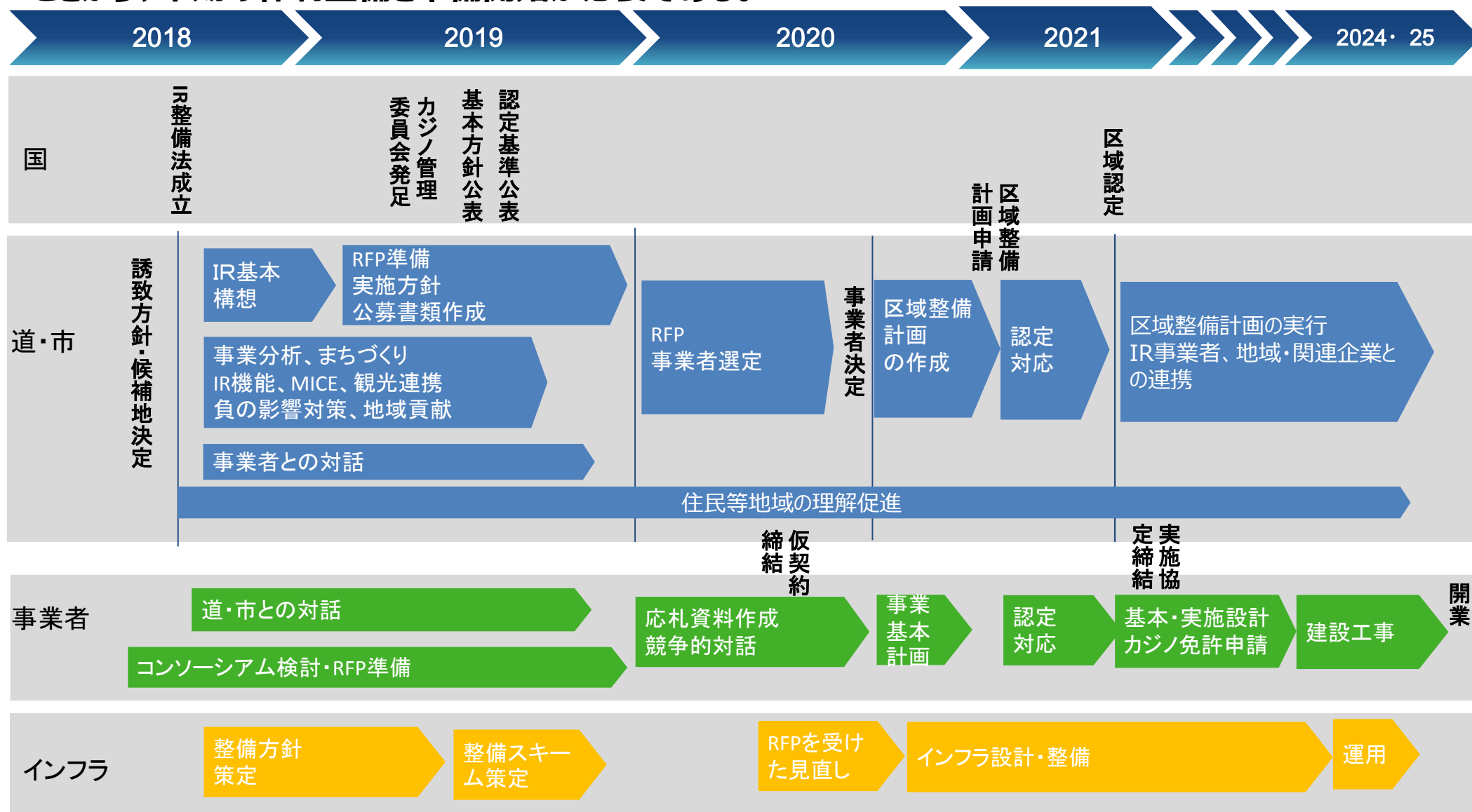
- ・ 行政の規制の押しつけだけではなく、各商業地域の自主規制等により、健全かつ安心して楽しめる街を目指した実態に即した対応
- ・ スマートシティの一環として、監視カメラ、IoT技術、ビッグデータを活用した防犯を実施

国際リゾート構想の実現に向けて



実現に向けた想定スケジュール

今後の検討スケジュールはIR整備法の成立時期の影響を受けるが、検討すべき項目は多く、時間を要することから、早期の体制整備と準備開始が必要である。



IR誘致に向けた事業者選定・区域申請の推進体制

評価選定委員会

有識者より構成され、公正かつ適正な観点より事業者を評価・選定

北海道・苫小牧市推進体制

有識者による 推進会議

事業者選定方法や区域申請計画について、高度な知見による検討、客観性・公平性の確保

- ・ 事業者選定・区域申請の主体は北海道。市は立地自治体として北海道と連携して取組み
- ・ 北海道知事・市長のリーダーシップが重要
- ・ 推進の中心となる専担者から構成されるプロジェクトチームの組成

IR事業者への意見聴取

事業者への要求水準等の妥当性の確保、事業者の参加意欲の向上、魅力的な提案を促進（公平性確保が前提）

国際リゾート構想実現に向けた地域連携

IR誘致に向けた準備段階での連携

実態を踏まえた地域に有用な計画の策定のため、民間企業等の意見・情報を聴取し、事業者選定、区域申請整備計画に反映

IR区域認定後のエリアマネジメント

地域連携組織を立ち上げ、行政・IR事業者・地域関係者と調整し、区域整備計画等に沿った実行計画の達成を目指す



地域連携の必要性

- 行政だけでなく、地域の企業・市民が連携しながら、真に地域に貢献するリゾート構想を実現する。



連携対象・組織イメージ

交通アクセス・インフラ



- 新千歳空港関連事業者
- 2次交通事業者（JR北海道等）
- エネルギー供給企業

まちづくり・周辺環境

- 商工会議所、商店街、飲食事業者、まちづくり団体、町内会、市民等



観光連携

- 観光協会、観光事業者等



サプライヤー



- IR建設・運営へのビジネス参入を検討している企業

スマートシティ



- 参入意思を持つ企業